

事務事業分析シート（平成23年度）

No1

事務事業名	体育指導委員活動	部課名	教育委員会事務局社会体育課	課長名	泉谷 清文
		担当者名	安部 翔	内線	3374
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（23年度）	体育指導委員活動（01-03-01）				
事務事業の種類	新規事業（23年度 22年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和	平成	37年度	根拠法令等	スポーツ振興法第19条、荒川区体育指導委員の設置に関する規則
終期設定	有	無	年度		
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市[]			
	政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]			
	施策	生涯スポーツの推進[04-14]			
目的	体育指導委員を委嘱することにより、 ・区のスポーツ普及、区民のスポーツ活動の促進、健康づくりと体力向上を図る。 ・スポーツをする機会が少ない区民へ、自主的・継続的にスポーツをすることができるよう推進を図る。 ・区のスポーツ振興のため、地域のスポーツリーダー、コーディネーター役を担う。				
対象者等	・区民一般 ・スポーツをする意欲はあるが、スポーツをする機会がない、あるいは少ない区民				
内容	現在45名の体育指導委員が、以下についての活動を行なっている 1 教育委員会、学校、その他行政機関が行なうスポーツ事業に協力する 2 団体の行なうスポーツに関する事業について、求めに応じて協力する 3 区民の求めに応じて、スポーツ実技の指導を行う 4 区民のスポーツ活動組織の育成を図る 5 区民に対し、スポーツについての理解を深める 6 官公署、学校及びスポーツ関係団体との調整を図る 7 区民のスポーツ振興のための指導・助言を行う 8 その他、区民のスポーツ活動の促進を図るため、ニュースポーツ普及等の研究を行う				
経過	・昭和37年の体育指導委員制度の発足当時は、スポーツ人口を増やすための実技指導者的な役割が期待され、その後は地域スポーツ振興事業の企画者、推進者という任務が重視され、最近では、区民の自主的・自立的なスポーツ活動を支援するための地域スポーツコーディネーターとして位置付けられるようになった。				
必要性	・高齢社会、子供の体力低下、健康づくり意識の高まり等々、今後も区民のスポーツニーズはますます高くなる。また、区民が生き生きと楽しく生活していくため、生涯スポーツ社会を実現することは重要なことであり、区内へのスポーツ普及の中核を担う体育指導委員の役割は非常に大きくなると予想される。				
実施方法	（1直営） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員） 教育委員会が次の要件を備える者を非常勤公務員として委嘱する。 ・スポーツ振興に深い関心と理解を持ち、相当な指導力及び実績がある者 ・社会的信望があり、各種スポーツに関し見識を有し、各種スポーツ事業の企画、運営に積極的に協力できる者 ・自己の資質向上のため、研修会や講習会等に積極的に参加できる者 ・原則として区内に住所を有する満25歳以上の者				

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
予算額	5,943	7,009	6,022	6,910	6,265	7,227	6,365	
決算額（23年度は見込み）	5,811	7,009	5,510	6,607	5,937	6,381	6,365	
人件費等	10,343	9,394	8,967	8,894	7,330	8,720		
減価償却費						2,905		
【事務分担量】（%）	120	110	105	105	90	100		
合計（+ +）	16,154	16,403	14,477	15,501	13,267	15,101	6,365	
国（特定財源）								
都（特定財源）								
その他（特定財源）								
一般財源	16,154	16,403	14,477	15,501	13,267	15,101	6,365	
実績の推移	事項名							
	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
	体育指導委員委嘱人数	45	45	45	45	45	45	

事務事業分析シート（平成23年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成21年度（決算）		平成22年度（決算）		平成23年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	報酬	体育指導委員報酬	4,455	体育指導委員報酬	4,455	体育指導委員報酬	4,455
	報償費・旅費	宿泊・管外研修会等	646	宿泊・管外研修会等	194	宿泊・管外研修会等	608
	食糧費	委員総会賄い等	60	委員総会賄い等	54	委員総会賄い等	62
	一般需用費	消耗品、体指だより	357	消耗品、体指だより	1,363	消耗品、体指だより	416
	役務費	スポーツ安全保険	72	スポーツ安全保険	72	スポーツ安全保険	73
	使用料	宿泊・管外研究会バス借上げ等	215	宿泊・管外研究会バス借上げ等	100	宿泊・管外研究会バス借上げ等	394
	負担金	各種研修会参加費等	132	各種研修会参加費等	143	各種研修会参加費等	357

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		20年度	21年度	22年度	23年度	目標値 (25年度)	
標	体育指導委員が企画立案する事業（マホールスポーツ大会、楽楽ユーススポーツ、ドッチビー大会）	290	400	670	530	780	一般区民参加者
	実技指導員派遣のイベント参加者数	700	800	950	1,200	2,000	コミュニティスポーツイベントの一般区民参加者

（問題点・課題）	<ul style="list-style-type: none"> ・各社会体育事業における体育指導委員への依存度の大きさ、区民の地域行事等への協力・スポーツ指導に対する期待の高まりと指導機会の増大などから、体育指導委員は多忙を極めている。 ・そのような状況の中で、今後、より良い人材を長期的に確保する方策を考えていく必要があるとともに、体育指導委員の存在を広く区民に周知し、独自の活動を展開していくことで、更なるスポーツの普及に努めることが必要である。
他区の実況	（実施 22 区 未実施 0 区）

問題点・課題の改善策検討	
平成24年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
現在までは、ドッチビー、特にディスクドッチという競技の普及に力を入れ、審判研修にも多く取り組んできた。今後はディスクドッチ以外のドッチビーの新たな遊び方（ゴールドドッチなど）の普及に取り組んでいく。	体育指導委員が新たなドッチビーの遊び方を提案することで、区民のスポーツの幅が広がり、健康増進や体力向上が期待できる。
体育指導委員の専用HPが昨年度完成し、事業の予告や報告などを掲載することで、現在多くの方に見ていただいている。今後更にアクセス数を増加させるため、更新頻度を増やしたり、予告や報告を速やかに実施する。	アクセス数が増加することで、体育指導委員活動の理解が広がり、また、事業の予告を見ることでスポーツ指導員派遣事業の参加者数の増加が期待できる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
重点的に推進	重点的に推進	体育事業の推進、地域のスポーツ振興を図る上で重要な役割を担い、行政とスポーツ参加者（区民）のパイプ役として、スポーツボランティアのリーダーとして欠かせない存在である。

議（要旨）	
-------	--

事務事業分析シート（平成23年度）

No1

事務事業名	スポーツひろば	部課名	教育委員会事務局社会体育課	課長名	泉谷清文
		担当者名	市川 清	内線	3374
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（23年度）	スポーツひろば（01-03-02）				
事務事業の種類	新規事業（23年度 22年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和	平成	59年度	根拠	学校教育法第137条・社会教育法第44条・
終期設定	有	無	年度	法令等	スポーツ振興法第7条及び第13条
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市[]			
	政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]			
	施策	生涯スポーツの推進[04-14]			
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 区民の健康増進、体力向上を図る。 ・ 区民に対するスポーツ習慣のきっかけづくりとするための場を提供する。 ・ スポーツを通じた地域における健全なコミュニティの育成、地域スポーツクラブの拠点づくり。 				
対象者等	普段スポーツから遠ざかっている方(区内在住、在勤、在学者で中学生以上) バスケットボールは高校生以上				
内容	「スポーツひろば実施要項」に基づき、区立小中学校13校（24会場）の体育館を、夜間「スポーツひろば」として開放している。なお、安全で円滑な運営を図るため、要項に基づき、「スポーツひろば運営委員会」を設置し、協議のうえ以下のとおり実施している。 1 実施会場・曜日（平成23年度）： 第二瑞光小：ドッチビー（火）、健康体力づくり（金） 尾久宮前小：卓球（火） 峡田小：ビーチボール（月）、ミニテニス（金） 第二日暮里小：卓球（木） 第四峡田小：バドミントン（火）、ビーチボール（木） 第五中：健康体力づくり（月）、バスケットボール（木） 尾久小：バレーボール（月）、ビーチボール（金） 尾久八幡中：みんなで健康づくり（金） 尾久西小：バドミントン（月）、キボールスポーツ（木） 南千住第二中：バドミントン（月）、バレーボール（木） 諏訪台中：ミニテニス（火）、健康体力づくり（金） 諏訪台中第二体育館：ビーチボール（月）、バドミントン（金） 第六瑞光小：ミニテニス（金） 大門小：卓球（火）、バドミントン（木） 2 時間：午後7時30分～9時30分 中学生は原則午後9時まで 3 種目：ミニテニス、ビーチボール、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球、健康体力づくり みんなで健康づくり、キンボールスポーツ、ドッチビー 4 参加費：無料 5 申込み：直接会場で申込み。ただし、中学生は保護者の承諾印が必要。				
経過	・昭和50年3月 「スポーツひろば実施要項」制定 同年4月1日施行・昭和50年9月 4校4会場で開始 ・平成20年4月12校21会場で実施 ・平成21年4月14校23会場で実施 ・平成22年4月14校24会場で実施 ・平成23年4月13校24会場で実施(震災の影響で実際は5月より実施) 中学生不可・・・五中バスケットボール 平成20年度から会場で小学生受入実施（条件あり試行）。				
必要性	区民の健康増進、体力向上の場を提供するとともに、地域の活性化、コミュニティづくりのきっかけとなるため、必要性は高い。				
実施方法	（1直営） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員） 以下のとおり3形態。 4～7月・9～12月で謝礼対象期間 8月・1～3月は利用者が自主的に運営。 管理指導員（1名）と実技指導員（1名）を配置。9会場。謝礼単価1回（管理）2,400円（実技）1,900円 自主管理指導員（2名）を配置。15会場。謝礼単価1回1,250円 自主管理員（2名）を配置。全会場。				

		（単位：千円）						
予算・決算額等の推移		17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
	予算額	3,063	3,277	3,311	3,315	3,194	3,189	3,194
	決算額（23年度は見込み）	2,994	3,158	3,011	2,432	2,380	2,435	3,194
	人件費等	3,879	4,697	5,124	5,082	4,886	5,232	
	減価償却費						1,743	
	【事務分担量】（%）	45	55	60	60	60	60	
	合計（+ +）	6,873	7,855	8,135	7,514	7,266	7,667	3,194
	国（特定財源）							
	都（特定財源）							
	その他（特定財源）							
一般財源	6,873	7,855	8,135	7,514	7,266	7,667	3,194	
実績の推移	事項名	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
	スポーツひろば 参加者数	13,698	14,523	13,659	13,463	14,456	15,100	15,200
	〃 学校数	14	14	14	13	14	14	13
	〃 会場数	23	24	24	22	23	24	24
	〃 種目数	7	8	8	8	8	8	9

事務事業分析シート（平成23年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成21年度（決算）		平成22年度（決算）		平成23年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	報償費	指導員謝礼	1,755	指導員謝礼	1,798	指導員謝礼	2,356
	一般需用	運営用消耗品	625	運営用消耗品	637	運営用消耗品	838
	備品購入						

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		20年度	21年度	22年度	23年度	目標値 (25年度)	
標	年間延べ参加者数（人）	13,463	14,456	15,100	15,200	15,500	
	1回平均参加者数（人）	17.3	17.6	18.1	18.5	20.0	
	自主管理会場実施率（％）	59.0	57.0	66.7	67.0	70.0	自主管理会場数 / 全会場数

（問題点・課題）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 少子高齢社会、地域の活性化の観点から、今後のスポーツひろばの基盤は地域が主体となって活動する自主管理方式の展開が不可欠であるが、依然として体育指導委員（行政）への依存度が高い。 ・ 初心者や運動から遠ざかっている方を対象としているが、年々新規の参加者が減少している。 ・ 種目や会場によって、参加者数の差が目立ち、種目・会場の変更や廃止などの見直しが必要である。 ・ 中学生・高校生や子供連れの方など、ルールやマナーを守れない利用者への対応に苦慮している。
他区の実況	（ 実施 17 区 未実施 5 区 ）

問題点・課題の改善策検討	
平成24年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
地域サークルや競技団体自ら「スポーツひろば」を管理運営する自主管理実施会場を拡大する。	生涯スポーツ社会の実現に向け、区民が主体的にスポーツにかかわると意識の向上が期待できる。
初心者や運動から遠ざかっている方に対する周知方法等、だれでも参加しやすい環境を整えるために検討する。	新規の参加者の増加が期待できる。
スポーツひろば運営委員会において、参加者の状況等、種目・会場等の円滑な運営について検討する。また、ルールやマナー違反者に対する統一的な見解を持つ事により、対応にばらつき等が無いように検討する。	種目・会場の見直しを行う事で、参加者数の増加が期待できる。 ルール・マナー違反者を減らす事により、安全で円滑なスポーツひろばの運営が期待できる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
推進	推進	区民が身近で気軽に参加でき、そして主体的に取り組むスポーツ活動の場として、今後も種目、対象、会場など拡充すべき事業である。

議（要旨）	
-------	--

事務事業分析シート（平成23年度）

No1

事務事業名	ラジオ体操振興費	部課名	教育委員会事務局社会体育課	課長名	泉谷 清文
		担当者名	磯谷恵子	内線	3374
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（23年度）	ラジオ体操振興費（01-03-03）				
事務事業の種類	新規事業（23年度 22年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和 平成	42 年度	根拠法令等	スポーツ振興法第7条、第11条	
終期設定	有 無	年度			
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市[]			
	政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]			
	施策	生涯スポーツの推進[04-14]			
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ラジオ体操指導者養成講習会：年中無休会場、町会、PTA等のリーダー層を対象に、正しいラジオ体操の普及を図る。 ・ラジオ体操中央大会：ラジオ体操は、老若男女を問わず誰もが気軽に楽しめることから、健康の保持増進と世代間を超えた交流を促進し、もって生涯のスポーツの推進を図る。 				
対象者等	健康に関心を持っている方				
内容	<p><平成23年度></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ラジオ体操指導者養成講習会（6月21日・22日） 夏休みを前に、PTA等を中心とした指導者を養成するため、2日間にわたり、ラジオ体操第一・第二及び「みんなの体操」の実技指導や指導方法を講習する。 ・ラジオ体操中央大会（7月18日） 年1回、夏季ラジオ体操の高揚を図るため、区内の小中学校校庭や公園等において、全区民に参加を呼びかけ実施している。 				
経過	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和29年、荒川区ラジオ体操会発足。 ・昭和47年、第1回中央大会を開催。 <p><活動内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・年中無休会場、21会場（夏休み期間中33会場）においてラジオ体操を実施。 ・年間行事：元旦ラジオ体操、耐寒ラジオ体操、指導者養成講習会、中央大会、夏季巡回ラジオ体操等 ・平成21年度は、南千住野球場において(株)かんぼ生命・NHK等が主催する夏季巡回ラジオ体操と中央大会を合同で開催（1,605人）。22年度は、第三日暮里小学校で中央大会を開催した。 				
必要性	ラジオ体操は老若男女を問わず誰もが楽しめる体操であるため、健康の保持増進のみならず、世代間交流の場としても必要性は高い。				
実施方法	<p>（1直営）（直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員）</p> <p>【ラジオ体操指導者養成講習会】ラジオ体操指導者を養成するため、元NHKラジオ体操講師及び助手を招き講習を実施し、正しい技術指導及び指導方法を習得してもらい、地域に還元する。</p> <p>【ラジオ体操中央大会】毎年7～8月に区立小中学校や体育館で全区民を対象に実施する。平成23年度は赤土小学校で開催する。</p>				

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
予算額	241	241	241	240	1,627	257	257	
決算額（23年度は見込み）	241	151	160	239	1,135	148	257	
人件費等	2,586	1,281	1,281	1,271	2,443	3,924		
減価償却費						1,307		
【事務分担量】（%）	30	15	15	15	30	45		
合計（+ +）	2,827	1,432	1,441	1,510	3,578	5,379	257	
国（特定財源）								
都（特定財源）								
その他（特定財源）								
一般財源	2,827	1,432	1,441	1,510	3,578	5,379	257	
実績の推移	事項名	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
	指導者養成講習会参加者（人）	241	216	214	224	267	216	250
	中央大会参加者（人）	200	105	200	230	1,605	340	400

事務事業分析シート（平成23年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成21年度（決算）		平成22年度（決算）		平成23年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	報償費	講師謝礼・助手謝礼	75	講師謝礼・助手謝礼	75	講師謝礼・助手謝礼	75
	中央大会指導員謝礼	15	中央大会指導員謝礼	15	中央大会指導員謝礼	15	
消耗品費	会場旗、立看板等	828	会場旗、立看板等	58	会場旗、立看板等	160	
			ポスター、チラシ等	0	ポスター、チラシ等	7	
使用料	中央大会会場使用料	217					

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		20年度	21年度	22年度	23年度	目標値 (25年度)	
標	指導者養成講習会参加者数	250	267	216	250	300	
	中央大会参加者数	300	1,605	340	400	500	平成21年度は夏季巡回と共同開催

（問題点・課題分析）	<p>・指導者養成講習会、中央大会ともに参加者の固定化が目立つため、PTAや町会等へのPRを強化していく必要がある。</p>
他区の実況	<p>（実施 4（5）区 未実施 18（17）区）</p> <p>（ ）は中央大会の数値</p>

問題点・課題の改善策検討	
平成24年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
区報・ホームページ・区営掲示板等に早めの周知をしているが、更に、ラジオ体操打ち合わせ会において、荒川区ラジオ体操会連盟と参加者増加のための周知方法等を検討する。	ラジオ体操参加者の増加に伴い、区民の健康に対する自覚促進が期待できる。
ラジオ体操指導者養成講習会に参加するPTAや地域の方々にラジオ体操会連盟への加入につながるきっかけづくりを図る。	若年層からのラジオ体操指導者の養成が図られる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
継続	継続	老若男女を問わず体を動かすことを気軽に楽しみ、区民の健康保持を図る事業として、継続して実施する。

議会議況（要旨）	
----------	--

事務事業分析シート（平成23年度）

No1

事務事業名	スキー教室	部課名	教育委員会事務局社会体育課	課長名	泉谷清文
		担当者名	安部 翔	内線	3374
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（23年度）	スキー教室（01 - 03 - 04）				
事務事業の種類	新規事業（23年度 22年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和	平成	41年度	根拠法令等	スポーツ振興法第7条
終期設定	有	無	年度		
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市[]			
	政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]			
	施策	生涯スポーツの推進[04-14]			
目的	・区民に対し、スキーに関する基礎技術の普及を図ることにより、安全に楽しみながら、健康増進、心身の健全な発達に資することを目的とする。				
対象者等	スキーに関心を持っている区内在住・在勤・在学者 平成19年度より小学生4年生以上対象				
内容	スキー連盟との共催により、次の内容で実施している。 1 定員70名（バス2台）、3泊4日で実施する。 2 技術指導については、荒川区スキー連盟が担当する。 3 平成18年度までは長野県志賀高原（2泊3日）であったが、平成19年度から長野県菅平高原（3泊4日）で実施している。 4 参加費は 一般30,000円、中学生29,000円、小学生27,000円（小学生は先着10名まで、保護者同伴）				
経過	・昭和41年度～57年度 年1回実施 昭和58年度～ 年2回実施 平成10年度～ 年1回実施 ・募集人員 ～昭和57年度 140人 平成10年度～ 70人 ・平成12年度 小学生4年生以上を受入れる。 ・平成13年度 スキー連盟が参加手続き等事務を行う。				
必要性	都会では体験できないスキーというスポーツを通して、自然と接する機会を設けることにより、体を動かすだけでなく、豊かな感性を育むきっかけとなるため、必要性は高い。				
実施方法	（1直営） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員） ・12月上旬：区営掲示板による周知、区報・区ホームページによる参加者募集（定員70名） ・1月中旬：バスを借上げ、長野県菅平高原で開催（3泊4日）				

		（単位：千円）						
予算・決算額等の推移		17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
	予算額	358	358	334	340	439	439	334
	決算額（23年度は見込み）	212	248	331	340	292	290	334
	人件費等	2,586	1,281	1,281	1,271	1,222	1,744	
	減価償却費						581	
	【事務分担量】（%）	30	15	15	15	15	20	
	合計（+ +）	2,798	1,529	1,612	1,611	1,514	290	334
	国（特定財源）							
	都（特定財源）							
	その他（特定財源）							
一般財源	2,798	1,529	1,612	1,611	1,514	290	334	
実績の推移	事項名	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
	参加者数（人）	53	48	57	54	59	36	60
	役員数（人）	13	12	13	16	14	14	14

事務事業分析シート（平成23年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成21年度（決算）		平成22年度（決算）		平成23年度（予算）	
		主な事項		主な事項		主な事項	
		金額（千円）		金額（千円）		金額（千円）	
	職員旅費	職員旅費	21	職員旅費	41	職員旅費	41
	一般需用	用紙代	4	用紙代	3	用紙代	5
	使用料	バス代	268	バス代	246	バス代	288

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		20年度	21年度	22年度	23年度	目標値 (25年度)	
標	参加者数（人）	54	59	36	60	70	

（問題点・課題） 指標分析	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の随行の必要性 ・スキー連盟と行政との役割分担を明確にし、現地での指導だけでなく、事故や怪我等のトラブル対応もスキー連盟に要請する。 ・区民へのスキーの普及という目的達成度を検討し、運営方法（主催・後援等）を達成度に応じて変えていく必要がある。 ・参加者数が22年度に大幅に減少してしまったことから、原因を検討・対処することが急務である。原因として、日程が年始すぐであったこと、開催場所が遠いこと、広報活動などに原因があると考えられる。
他区の実況	（ 実施 16 区 未実施 6 区 ）

問題点・課題の改善策検討	
平成24年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
スキー連盟に、事故や怪我等の対応のため、救命講習等の受講を呼びかける。	スキー連盟がトラブルに対応することで、区職員の負担が軽減し随行の必要性がなくなり、スキー連盟が独自で教室を運営できる。
開催日を1月末日にずらすことや、開催場所を荒川区から近くし移動時間を短縮すること、チラシやポスターのレイアウトや配布方法などを、変更・検討していく。	日程や開催場所の変更により、新たな区民の参加が期待できる。
スキー教室実施後、参加者に対しアンケート調査を行う。	翌年のスキー教室に向けての資料となり、内容の改善につながる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
継続	継続	スキーを通して自然と接し、ウインタースポーツを促進する事業として、継続実施する。

議会議案 （要旨） 状況	
--------------------	--

事務事業分析シート（平成23年度）

No1

事務事業名	区民ハイキング	部課名	教育委員会事務局社会体育課	課長名	泉谷 清文
		担当者名	安部 翔	内線	3374
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（23年度）	区民ハイキング（01-03-05）				
事務事業の種類	新規事業（23年度 22年度）		建設事業		それ以外の継続事業
開始年度	昭和	平成	31年度	根拠法令等	スポーツ振興法第10条
終期設定	有 無				
実施基準	法令基準内		都基準内	区独自基準	
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市[]			
	政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]			
	施策	生涯スポーツの推進[04-14]			
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・区民が自然に親しみながら、心身の健全な発達及び健康増進に役立つことを狙いとする。 ・平成10年度から補助事業とすることにより、荒川区レクリエーション協会の自立を一層高め、適切な受益者負担を図る。 				
対象者等	小学生以上の区内在住・在勤・在学者（小学生は保護者同伴）				
内容	<p>荒川区レクリエーション協会が主催し、以下の内容で、春・秋及び一泊の区民ハイキングを実施している。区は経費の一部を助成する。（一泊は平成18年度から実施。）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 区報で周知する。 2 申込希望者は、往復はがきに参加人数、参加者全員の住所・氏名・年齢・電話番号を明記し申込む（4人まで申込可） 3 公開抽選会で参加者を決定（毎回、申込者は定員の1.3～2倍）。 4 当選者・補欠・落選者に返信はがきで通知する。 5 当選者は所定の期日までに参加費を支払う。 6 キャンセルが出た場合は、補欠の上位者から繰り上げ当選とする。 7 ハイキング当日は、荒川区レクリエーション協会がすべて運営等を行う。 <p>* ハイキングの下見及び実地踏査も、すべて荒川区レクリエーション協会が自主的に行っている。</p>				
経過	<ul style="list-style-type: none"> ・平成10年度より、これまでの教育委員会と荒川区レクリエーション協会の共催から、協会の主催事業とするとともに、参加費を2,000円から3,000円に改定した。 ・11年度より、参加者の定数を40人増やし、春・秋の合計を200人とした。 ・12年度は、さらに定数を40人増やし、春・秋各120人の240人とした。 ・13年度より、帽子の配布をやめ、参加費を3,000円から2,500円に改定した。 ・14年度より、受益者負担の徹底を図る観点から補助金を減額し、バス代の1/2としたので、協会の負担が増加した。 ・18年度より、定数40人の一泊区民ハイキングを実施。 ・23年度より、荒川区レクリエーション協会実施事業補助金交付要綱を改正し、補助金交付額は区民ハイキングの実施に伴う経費のうち1/2までと定めた。 				
必要性	長年行っている事業で区民にも定着しており、毎回定員に対する申込者の1.3～2倍となっている。また、比較的高年齢層にも参加しやすい社会体育事業であることから必要性は高い。				
実施方法	（3委託） （ 直营の場合 常勤 非常勤 臨時職員 ） 荒川区レクリエーション協会に補助金を交付して実施。				

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
予算額	336	336	408	408	590	590	470	
決算額（23年度は見込み）	336	336	408	408	470	464	470	
人件費等	2,586	1,281	1,281	1,271	2,850	4,360		
減価償却費						1,453		
【事務分担量】（%）	30	17	15	15	35	50		
合計（ + + ）	2,922	1,617	1,689	1,679	3,320	464	470	
国（特定財源）								
都（特定財源）								
その他（特定財源）								
一般財源	2,922	1,617	1,689	1,679	3,320	464	470	
実績の推移	事項名							
	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
区民ハイキング申込者（人）	448	480	356	438	479	506	520	
区民ハイキング参加者数（人）	242	240	276	275	283	284	285	

事務事業分析シート（平成23年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成21年度（決算）		平成22年度（決算）		平成23年度（予算）	
		主な事項		主な事項		主な事項	
		金額（千円）	金額（千円）	金額（千円）	金額（千円）		
	負担金補助及び交付金	区民ハイキング経費一部補助	470	区民ハイキング経費一部補助	464	区民ハイキング経費一部補助	470

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		20年度	21年度	22年度	23年度	目標値 (25年度)	
	申込者当選倍率（倍）	1.86	1.80	1.88	2.00	2.50	申込者数 / 定員240人（春・秋）

（問題点・課題 指標分析）	<p>・毎回定員以上の参加申込があるものの、参加申込者がほぼ固定化していることから、新たな参加希望者を獲得するため、ハイキング実施場所や、若年齢層の拡大等の検討を行い、区報や区のホームページを中心に多くの方に対して、PRをする必要がある。</p>
他区の実況	（実施 15 区 未実施 7 区）

問題点・課題の改善策検討	
平成24年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
広報活動に力を入れる。ポスターやチラシを早めに配布したり、ホームページに掲載する時期を早めたり更新頻度を増やすことで、情報をいち早く発信していく。	参加者数の増加や、ホームページを利用する若い世代の新たな参加が見込まれる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
継続	継続	多くの区民が、自然の中で体を使い気軽に楽しめるレクリエーション活動として継続して実施する。

議 会 要 旨 状	
-----------------------	--

事務事業分析シート（平成23年度）

No1

事務事業名	都民体育大会等選手団派遣		部課名	教育委員会事務局社会体育課	課長名	泉谷清文
			担当者名	磯谷恵子	内線	3374
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（23年度）	都民体育大会等選手団派遣（01-03-06）					
事務事業の種類	新規事業（23年度 22年度）		建設事業		それ以外の継続事業	
開始年度	昭和	平成	28年度	根拠法令等	スポーツ振興法第14条	
終期設定	有 無		年度			
実施基準	法令基準内		都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市[]				
	政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]				
	施策	生涯スポーツの推進[04-14]				
目的	<p>【都民体育大会】（主催 東京都体育協会・東京都）大会に選手を派遣することにより、本区の各競技技術水準の向上を図る。また、代表選手団の結団式を開催することで、区代表選手としての意識と団結力を高める。</p> <p>【都民生涯スポーツ大会】（主催 東京都体育協会・東京都）大会に選手を派遣することにより、中高年の区民に広くスポーツ活動を実践する場を提供し、生涯にわたるスポーツ活動の普及・振興に資することを目指す。</p>					
対象者等	<p>【都民体育大会】区民体育大会の参加者等の中から大会成績等に基づき区体育協会が選出し、区が決定した代表選手</p> <p>【都民生涯スポーツ大会】区体育協会が各競技団体から選出し、区が決定した代表選手</p>					
内容	<p>【都民体育大会】＜春季大会＞サッカーほか18競技 ＜夏季大会＞水泳 ＜冬季大会＞スキー・駅伝</p> <p>1．区代表選手を決定し、各競技会に派遣する。</p> <p>2．区代表選手（監督・コーチ・マネージャーを含む）に派遣補助金（交通費実費相当分）を交付する。平成14年度より、平成13年度までは一律1,100円を交付。区体育協会からも派遣費1,000円/人が交付されている。</p> <p>3．春季大会区代表選手団結団式をサンパール荒川で開催する。平成20年度より前年度の夏季・冬季大会出場選手も招待している。</p> <p>【都民生涯スポーツ大会】</p> <p>1．区代表選手を決定し、各競技会に派遣する。</p> <p>2．区代表選手（監督・コーチ・マネージャーを含む）に派遣補助金（交通費実費相当分）を交付する。（平成14年度より）</p>					
経過	<p>【都民体育大会】＜春季大会＞平成8年度からゲートボール競技への派遣事業を開始（派遣選手18人増）。平成12年度から推薦状印刷及び筆耕の外部発注分を庁内印刷に変更。平成12年度から少林寺拳法競技への派遣事業を開始（派遣選手21人増）。＜夏季大会＞平成10年度から水泳競技への派遣事業を開始。＜冬季大会＞昭和50年度から駅伝競技、平成6年度から駅伝競走への派遣事業を開始。</p> <p>【都民生涯スポーツ大会】平成12年度「都民スポーツレクリエーションフェスティバル」から名称変更。平成12年度より「全国スポーツレクリエーション祭」への派遣事業は廃止。（参加資格を有する団体がバドミントン、テニス、ホウリング、ゲートボールのみと偏りがあり、他競技との公平性を欠くため）</p>					
必要性	本区の各競技技術水準の向上を図るとともに、広く区民にスポーツ活動を実践する場を提供し、生涯にわたるスポーツ活動の普及・振興に資するため、大会への選手派遣は必要である。					
実施方法	<p>（1直営）（直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員）</p> <p>【都民体育大会】区体育協会が選出した選手を、区教育委員会が区代表選手として決定し申込を行う。区代表選手に派遣補助金（交通費実費相当分）を交付する。代表選手団の結団式を開催する。</p> <p>【都民生涯スポーツ大会】区体育協会が選出した選手を、区教育委員会が区代表選手として決定し申込を行う。区代表選手に派遣補助金（交通費実費相当分）を交付する。</p>					

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
予算額	948	948	948	990	961	961	961	
決算額（23年度は見込み）	821	840	874	906	881	870	961	
人件費等	4,740	3,416	1,708	1,694	3,258	2,616		
減価償却費						872		
【事務分担量】（%）	55	40	20	20	40	30		
合計（+ +）	5,561	4,256	2,582	2,600	4,139	3,486	961	
国（特定財源）								
都（特定財源）								
その他（特定財源）								
一般財源	5,561	4,256	2,582	2,600	4,139	3,486	961	
実績の推移	事項名	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
	派遣選手数【都民大会・春季】	276	283	259	225	286	245	300
	【都民大会・夏季】	3	6	2	4	2	1	5
	【都民大会・冬季】	19	19	21	20	21	12	25
	【都民生涯スポーツ大会】	47	43	36	60	45	44	50

事務事業分析シート（平成23年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成21年度（決算）		平成22年度（決算）		平成23年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	食糧費	結団式賄	400	結団式賄	400	結団式賄	401
	一般需用	結団式盛花	10	結団式盛花	11	結団式盛花、推薦状用紙	13
	役務費	開会式用ﾊﾞｽﾄｸﾘｰﾆﾝｸﾞ	7	開会式用ﾊﾞｽﾄｸﾘｰﾆﾝｸﾞ	7	開会式用ﾊﾞｽﾄｸﾘｰﾆﾝｸﾞ	9
	使用料及負担金補	結団式会場借上	17	結団式会場借上	17	結団式会場借上	17
		代表選手派遣補助金	447	代表選手派遣補助金	435	代表選手派遣補助金	521

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		20年度	21年度	22年度	23年度	目標値 (25年度)	
	派遣選手数	309	354	302	380	400	延べ派遣選手数（監督・コーチ・マネージャーを含む）

（問題点・課題）	<p>【都民体育大会】 <夏季大会・水泳競技> ・代表選手は都体育協会から競技要項が届いてから選出しているが、選手から「大会までの練習期間が短い ため調整が困難」との意見が出ている。</p>
他区の実況	（実施 22 区 未実施 0 区）

問題点・課題の改善策検討	
平成24年度以降に取り組み具体的な改善内容	改善により期待する効果
区民大会の上位入賞者や区水泳連盟に早い時期から周知し、代表選手の選出時期を早め、選手の調整期間を十分に確保する。	選手がベストコンディションで大会に臨むことができ、好成績が期待できる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
継続	継続	競技意識及び競技レベルの向上とスポーツの活性化を図るため、維持すべき事業である。

況議 （要旨） 問 状	
----------------------	--

事務事業分析シート（平成23年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成21年度（決算）		平成22年度（決算）		平成23年度（予算）	
		主な事項		主な事項		主な事項	
		金額（千円）	金額（千円）	金額（千円）	金額（千円）		
	負担金補助及び交付金	補助金	3,550	補助金	3,700	補助金	3,700
						60周年記念補助金	1,000

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		20年度	21年度	22年度	23年度	目標値 (25年度)	
	体育協会加盟団体数	27	27	28	28	28	

（問題点・課題分析）	
他区の実況	（実施 19 区 未実施 3 区） 未実施区は、新宿・目黒・江戸川区

問題点・課題の改善策検討		
	平成24年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
	加盟団体の強化発展のため、引き続き補助金を支出する。	広く区民にPRでき区民の体育向上につながる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
推進	推進	加盟団体の育成・強化及び生涯スポーツ振興など幅広く活動し、区内スポーツ活動で重要な役割を担っている。また、区内2つ目の総合型地域スポーツクラブ設立に向けて核となっている。

況議会（要旨）問状	
-----------	--

事務事業分析シート（平成23年度）

No1

事務事業名	生涯スポーツ振興事業	部課名	教育委員会事務局社会体育課	課長名	泉谷 清文
		担当者名	八頭司 篤	内線	3371
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（23年度）	生涯スポーツ振興事業（01-03-08）				
事務事業の種類	新規事業（23年度 22年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和 平成	17 年度	根拠	生涯スポーツ振興事業補助金交付要綱・スポーツ振興法第22条	
終期設定	有 無	年度	法令等		
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市[]			
	政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]			
	施策	生涯スポーツの推進[04-14]			
目的	区民が生涯を通じて、自ら自発的にスポーツ活動に取り組むことは、健康で充実した生活を送るうえで大変重要なことである。区では、身近なところでスポーツが楽しめるよう、生涯スポーツの促進に取り組んでいる。区内の社会体育団体を統括する荒川区体育協会に対し、体育協会が実施する事業の経費の一部について、区が補助金を交付することにより、区の社会体育の振興を図る。				
対象者等	荒川区体育協会				
内容	<p>荒川区体育協会が行う著名スポーツ選手によるスポーツ教室や誰もが参加できるスポーツイベントなどの事業費を対象経費とする。ただし、区から体協へ行っている体育協会補助金及び委託費等として支出される次の事業は補助金対象経費とはしない。</p> <p>（委託費等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区民体育大会審判等運営委託 ・体育の日記念事業運営委託 ・都民体育大会代表選手派遣等 ・親子で体力アップ推進事業 ・総合型地域スポーツクラブ設立支援 				
経過	<p>区の生涯スポーツ振興のため、17年度から実施したものである。</p> <p>あらかわ生涯スポーツフェスティバル2006（ウォークリ-他3事業実施）参加者673人</p> <p>あらかわ生涯スポーツフェスティバル2007（武道全部見せるぞ他3事業実施）参加者820人</p> <p>あらかわ生涯スポーツフェスティバル2008（スポーツ教室 サッカー、卓球、ビ-ボール、ミニテニス、キボ-ル）参加者1,043人</p> <p>あらかわ生涯スポーツフェスティバル2009（スポーツ教室&大会・武道を全部見せる見せるぞ！）参加者1,400人</p> <p>あらかわ生涯スポーツフェスティバル2010（スポーツ教室&大会 フットサル、ビ-ボール、ラジボ-ル卓球、ミニバスケット、キボ-ル、ミニテニス、バドミントン）参加者1,615人</p>				
必要性	本事業はスポーツに深い見識がある荒川区体育協会が実施することが望ましく、区は側面からサポートしていく。				
実施方法	<p>（1直営） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員）</p> <p>荒川区体育協会へ補助金を支出し、荒川区体育協会が実施。</p>				

		（単位：千円）						
		17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
予算・決算額等の推移	予算額	3,000	2,000	1,000	500	500	500	1,000
	決算額（23年度は見込み）	3,000	2,000	919	500	500	500	1,000
	人件費等	4,310	2,135	2,135	1,694	814	872	
	減価償却費						291	
	【事務分担量】（%）	50	25	25	20	10	10	
	合計（+ +）	7,310	4,135	3,054	2,194	1,314	1,663	1,000
	国（特定財源）							
	都（特定財源）							
	その他（特定財源）							
	一般財源	7,310	4,135	3,054	2,194	1,314	1,663	1,000
実績の推移	事項名	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
	参加者数	1,346	673	820	1,043	1,400	1,615	1,800

事務事業分析シート（平成23年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成21年度（決算）		平成22年度（決算）		平成23年度（予算）		
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	
	負担金補助及び交付金	補助金	500	補助金	500	補助金	500	子育て世代等生涯スポーツ振興支援補助金

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		20年度	21年度	22年度	23年度	目標値 (25年度)	
開催件数		1件	2件	2件	3件	3件	20年度ホムレージ作成は件数から除く
参加者数		1043人	1400人	1615人	1800人	1850人	

(問題点・課題分析)	<p>誰もが生涯に渡って続けているスポーツに親しめる機会の提供として、同事業は平成17年度から実施している。平成19年度からは、潜在的なニーズはあるが、気軽に始められないイメージが強い武道の振興事業イベントとして「武道を全部見せるぞ」を行ったところ好評であった。</p> <p>子育て中の若い世代（特に女性）が運動をする機会が少ない。そういった世代にターゲットを絞ったイベントを平成23年度から実施する。</p>
他区の実況	（実施 14 区 未実施 8 区）

問題点・課題の改善策検討		
	平成24年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
	子育て中の若い世代の興味をひくような事業の実施	子育て中の若い世代が運動するきっかけとなる

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
推進	推進	区民が身近にスポーツに取り組めるよう生涯スポーツを促進する。スポーツ実施率の向上にもつなげていく。

(状況・要旨)	
---------	--

事務事業分析シート（平成23年度）

No1

事務事業名	親子で体力アップ推進事業	部課名	教育委員会事務局社会体育課	課長名	泉谷 清文
		担当者名	八頭司 篤	内線	3371
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（23年度）	親子で体力アップ推進事業（01-03-09）				
事務事業の種類	新規事業（23年度 22年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和 平成	19 年度	根拠	親子で体力アップ推進事業補助金交付要綱・スポーツ振興法第22条	
終期設定	有 無	年度	法令等		
実施基準	法令基準内 都基準内 区独自基準		計画区分	計画	非計画
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市[]			
	政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]			
	施策	生涯スポーツの推進[04-14]			
目的	子どもを取り巻くスポーツ環境やライフスタイルの変化等により、近年、子どもの体力・運動能力が低下している。区の未来を担う子どもの体力低下は、将来的に区民全体の体力・活力低下につながる事となる。その背景にある生活習慣の乱れについて、子どもへの対策の実効性の面から、保護者に対してもアプローチしていき、保護者自身の意識改革を図る。併せて、大人の運動不足の解消や生活習慣病対策への効果を図る。				
対象者等	区民（子どもと保護者）				
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体育協会に補助金を支出し、親子で楽しめるスポーツイベントを実施し、スポーツを行うきっかけづくりとする。 ・ 区の主催で、親子が楽しみながら継続して行うことができる体操教室などの「元気アップ・体力アップトレーニング」を実施し、親子で実施可能な運動プログラムを提供することにより、スポーツを行う習慣づくりを図る。 ・ 親子で自主活動しているスポーツサークル等を支援する費用の一部助成について実態を研究し、実施に向けて検討する。 				
経過	文科省の調査でも基礎的な運動能力や筋力が1985年度前後をピークに著しく低下傾向にあり柔軟性や敏捷性など、体をコントロールする機能の低下も深刻である。国のスポーツ振興基本計画でも、新たにこどもの体力向上策が政府目標として掲げられている状況の中、区でも早急な対応がもてられているところである。				
必要性	親子（子ども・大人）が体力・運動能力の意義を共に理解し、その重要性を共に共有でき、家庭に戻っても事業の実効性を確保できるものとする見地から本イベントを実施するため、その必要性は高いと言える。また、現在の子どもの体力低下の現状と、その背景にある生活習慣の乱れについて保護者が理解し、その認識を深め、家庭の中で、親子が実施できる運動プログラムを提供することからも、必要性は高い。				
実施方法	（2一部委託） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員） 荒川区体育協会へ補助金を支出し、荒川区体育協会が実施するイベントと、「子ども体力アップトレーニング」を考案したスポーツセンター指定管理者へ委託して実施する荒川区主催のイベントの2事業を実施。 親子が楽しく一緒にバランス感覚やリズム感覚を養いながら体力アップできるスポーツゲーム等を実施する。				

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
予算額			1,000	1,000	1,000	3,000	2,900	
決算額（23年度は見込み）			1,000	1,000	1,000	1,891	1,500	
人件費等			1,281	1,271	407	872		
減価償却費						291		
【事務分担量】（%）			15	15	5	10		
合計（+ +）	0	0	2,281	2,271	1,407	3,054	1,500	
国（特定財源）								
都（特定財源）								
その他（特定財源）								
一般財源	0	0	2,281	2,271	1,407	3,054	1,500	
実績の推移	事項名	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
	開催件数				1	1	3	2
	参加者数				220	250	494	505

事務事業分析シート（平成23年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成21年度（決算）		平成22年度（決算）		平成23年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	報償費			講師謝礼	0	講師謝礼	900
	委託料			委託料	891	委託料	1,000
	負担金補助及び交付金	補助金	1,000	補助金	1,000	補助金	1,000

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		20年度	21年度	22年度	23年度	目標値 (25年度)	
	開催件数	1	1	3	2	2	
	参加者数（体協実施分）	110組 220人	125組 250人	128組 256人	130組 260人	130組 260人	
	参加者数（区主催分）			238人	245人		

（問題点・課題分析）	<ul style="list-style-type: none"> ・親子ウォークラリーやゲーム性のある運動等、親子が参加しやすいイベントをおこない、1組でも多くの親子に参加してもらう。また、参加後の経過の検証をどのように行っていくのかの検討が必要である。 ・対象の範囲（子どもの年齢等）については、随時、検討・研究が必要である。
他区の状況	（実施 0 区 未実施 22 区）

問題点・課題の改善策検討	
平成24年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
区立小学校全校児童に開催案内を送付するなど徹底し、参加者を募る	参加者の増加

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
推進	推進	子どもの体力、運動能力の低下を防ぎ、合わせて親世代の運動不足解消、生活習慣病対策として、親子で楽しく参加して運動のきっかけをつくる本事業は必要性が高い。

（議会要旨）	
--------	--

事務事業分析シート（平成23年度）

No1

事務事業名	総合型地域スポーツクラブ設立支援	部課名	教育委員会事務局社会体育課	課長名	泉谷 清文
		担当者名	白石 政昭	内線	3372
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（23年度）	総合型地域スポーツクラブ設立及び育成支援（01-03-10）				
事務事業の種類	新規事業（23年度 22年度）		建設事業		それ以外の継続事業
開始年度	昭和	平成	20年度	根拠	スポーツ振興法第4条第1項に基づく「スポーツ振興基本計画」
終期設定	有	無	年度	法令等	
実施基準	法令基準内		都基準内	区独自基準	計画区分
					計画
					非計画
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市[]			
	政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]			
	施策	生涯スポーツの推進[04-14]			
目的	総合型地域スポーツクラブは、区民のスポーツ活動、健康づくりに寄与するだけでなく、区民自らの選択と責任に基づく主体的な地域住民の協働・交流の場として、個性豊かで活力ある地域社会の実現に寄与する。				
対象者等	荒川区体育協会、荒川区体育指導委員会、町会及びPTAなどで構成する総合型地域スポーツクラブ設立準備委員会が進めてきた南千住スポーツクラブが設立されたので、同スポーツクラブを対象とし必要な支援を図る。また、新たなクラブ設立に向けて、荒川区体育協会を対象として必要な支援を図る。				
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツを確実に区民に定着させるためには、それぞれの地域のスポーツニーズに即した仕組みの構築が不可欠で、地域住民の主体的な活動が必要となるので、総合型地域スポーツクラブの支え手、担い手は地域住民であることが重要である。 ・区としては、「南千住地区総合型地域スポーツクラブ」が平成22年9月に開設されたが、安定的な運営を行うために設立後1年目に限り、必要な側面的な支援を行っていくこととする。（50万円） ・また、2番目のクラブ設立に向けて、調査・研究のための活動支援を行う。（30万円） 				
経過	<ul style="list-style-type: none"> ・総合型地域スポーツクラブは、平成12年に国が策定したスポーツ振興基本計画の中で、成人の週1回以上のスポーツ実施率を2人に1人（50%）以上とすることを目指すとした政策目標において、その具体的な手段の一つとして、2010年までに、各市町村に最低1か所、設立を目指しているものである。 ・平成17年度から、生涯スポーツ振興事業（生涯スポーツフェスティバル）を通して、荒川区体育協会が核となり、調査・研究及び先進クラブの視察等を行い、クラブ設立への気運を高める活動を行ってきたが、荒川区体育協会、荒川区体育指導委員会、町会及びPTAなどで構成する設立準備委員会が発足し、設立に向けて地域住民と一緒に荒川区体育協会が中心となって平成22年9月に「南千住スポーツクラブ」が開設された。 				
必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・区民の心身の健全な発達、健康増進のために、区民が主体的にスポーツ活動に取り組むことは、大変重要であるが、世論調査では区民の週一回以上のスポーツ実施率は平成17年では約26%、平成22年では25%と国の目標である50%には、かなり開きがある状況である。 ・今後、特にスポーツが苦手あるいは遠ざかっている区民のスポーツ活動を促進していくためには、いつでも、だれでも、どこでも、身近なところで気軽に参加でき、多彩なスポーツメニューがある「総合型地域スポーツクラブ」の開設は、区民のスポーツ実施率の向上が期待できる。 				
実施方法	（1直営）（直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員） 荒川区体育協会へ補助金を支出し、荒川区体育協会が実施。				

		（単位：千円）						
		17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
予算・決算額等の推移	予算額				500	500	1,300	800
	決算額（23年度は見込み）				500	500	1,300	800
	人件費等				847	814	872	
	減価償却費						291	
	【事務分担当】（%）				10	10	10	
	合計（+ +）	0	0	0	1,347	1,314	2,463	800
	国（特定財源）							
	都（特定財源）							
	その他（特定財源）							
	一般財源	0	0	0	1,347	1,314	2,463	800
実績の推移	事項名	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
	総合型地域スポーツクラブ設立数					1	1	1

事務事業分析シート（平成23年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成21年度（決算）		平成22年度（決算）		平成23年度（予算）	
		主な事項		主な事項		主な事項	
		金額（千円）		金額（千円）		金額（千円）	
	負担金補助及び交付金	補助金	500	補助金	1,300	設立支援補助金	300
						育成支援補助金	500

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		20年度	21年度	22年度	23年度	目標値 (25年度)	
	総合型地域スポーツクラブ設立数		1	1	1	2	総合型地域スポーツクラブ設置数

（問題点・課題分析）	<ul style="list-style-type: none"> ・南千住地区において22年度に総合型地域スポーツクラブが設立されたが、安定的に運営できるよう支援していく必要がある。 ・2番目のクラブ設立に向けて、クラブ設立の調査・研究のための活動を支援する必要がある。
他区の実況	（実施 11 区 未実施 11 区）

問題点・課題の改善策検討		
	平成24年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
	クラブの運営が安定し、軌道にのるよう支援する	クラブ運営の安定化
	専門アドバイザーによるクラブ設立の助言や既存クラブの調査・研究	クラブ設立に向けた準備の円滑化

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
推進	推進	スポーツする機会の充実、世代間交流、地域コミュニティの活性化等につながるクラブとして22年度に設立した1か所目の運営を支援し、あわせて2か所目の設立を目指す。

（状況）	<p>平成19年第3回区議会定例会 「地域住民が気軽にスポーツに親しむことができる総合型地域スポーツクラブを早期に設立する必要があると思うが、教育委員会の見解を伺う」</p>
------	--

事務事業分析シート（平成23年度）

No1

事務事業名	コミュニティスポーツの普及	部課名	教育委員会事務局社会体育課	課長名	泉谷清文
		担当者名	安部 翔	内線	3374
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（23年度）	コミュニティスポーツの普及（01-03-11）				
事務事業の種類	新規事業（23年度 22年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和 平成	63 年度	根拠	スポーツ振興法第7条	
終期設定	有 無	年度	法令等		
実施基準	法令基準内 都基準内 区独自基準		計画区分	計画	非計画
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市[]			
	政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]			
	施策	生涯スポーツの推進[04-14]			
目的	<p>・誰でも気軽にスポーツに親しみ、健康の保持増進と世代間を超えた区民相互の交流を促進し、生涯スポーツの推進を図るとともに、学校週5日制に対応した体育事業振興のため、ドッチビー等のニュースポーツの指導員として体育指導委員を派遣する。</p> <p>・ルールが簡単で、年齢や体力の有無にかかわらず、誰もが気軽に参加できる生涯スポーツとしての、コミュニティスポーツを通して、スポーツ人口の拡大と区民相互の交流を図る。</p>				
対象者等	<p>【指導員派遣】スポーツを行う、あるいは指導する団体（PTA、町会等）</p> <p>【ドッチビーチャレンジ大会】区内在住・在勤・在学者（小学生以上）</p> <p>【楽楽ニュースポーツ&スポーツ教室】区内在住・在勤・在学者</p>				
内容	<p>1. コミュニティスポーツ（ドッチビー等）の実技指導員派遣</p> <p>2. ドッチビーチャレンジ大会（6月）…実技指導員派遣やスポーツひろば等で普及してきたドッチビーのさらなる普及充実を図るため実施する。体験会と大会を同日に開催することで、初めて体験する参加者でもすぐに試合になじめるようにする。</p> <p>3. 楽楽ニュースポーツ&スポーツ教室（9月）…体育指導委員の指導により、ニュースポーツを体験してもらう。</p>				
経過	<p>【みんな集まれ！楽楽ニュースポーツ】</p> <p>16年度 「ふれあいスポーツフェスティバル」として実施</p> <p>17・18年度 「あらかわ生涯スポーツフェスティバル」と名称変更し、ニュースポーツを採り入れる</p> <p>19年度 「みんな集まれ！楽楽ニュースポーツ」と名称変更</p> <p>21年度 「楽楽ニュースポーツ&スポーツ教室」と名称変更</p> <p>【みんなで楽しくキンボールスポーツ大会】</p> <p>19年度 「第1回みんなで楽しくキンボール大会」を開催</p> <p>22年度 「第4回みんなで楽しくキンボール大会」を開催し、区主催事業としては終了した</p> <p>【ドッチビーチャレンジ大会】</p> <p>22年度 「荒川区ドッチビーチャレンジ大会」を開催、午前に体験会・午後には大会を実施</p>				
必要性	区民の健康保持、スポーツに対する関心を高め、スポーツ人口増加につながるため、必要性は高い。				
実施方法	<p>（1直営） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員）</p> <p>1. 実技指導員派遣…PTAや町会等から依頼を受け内容確認後に体育指導委員に派遣を要請する。</p> <p>2. ドッチビーチャレンジ大会…区報・チラシ・HP等による募集 スポーツセンターで体験会と大会を開催</p> <p>3. 楽楽ニュースポーツ&スポーツ教室…区報・チラシ・HP等による募集 体育指導委員は指導員として実技指導を行う。</p>				

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
予算額	393	733	701	662	530	1,112	1,022	
決算額（23年度は見込み）	378	639	632	421	275	879	1,022	
人件費等	3,017	5,124	8,113	7,623	8,144	4,360		
減価償却費						1,453		
【事務分担量】（%）	35	60	95	90	100	50		
合計（+ +）	3,395	5,763	8,745	8,044	8,419	879	1,022	
国（特定財源）								
都（特定財源）								
その他（特定財源）								
一般財源	3,395	5,763	8,745	8,044	8,419	879	1,022	
実績の推移	事項名							
	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
実技指導員派遣回数	11	12	18	8	3	9	10	
指導員派遣のイベント参加者数	1,108	1,200	1,562	725	415	950	1,000	
ドッチビーチャレンジ大会	-	-	-	-	-	197	300	
楽楽ニュースポーツ参加者数	160	201	163	179	202	211	230	

事務事業分析シート（平成23年度）

No1

事務事業名	荒川リバーサイドマラソン	部課名	教育委員会事務局社会体育課	課長名	泉谷清文
		担当者名	磯谷 恵子	内線	3374
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（23年度）	荒川リバーサイドマラソン（01-03-12）				
事務事業の種類	新規事業（23年度 22年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和	平成	4年度	根拠法令等	スポーツ振興法第7条
終期設定	有	無	年度		
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市[]			
	政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]			
	施策	生涯スポーツの推進[04-14]			
目的	・マラソンを通じて誰もが気軽にスポーツに親しみ、明るく豊かな区民生活を営むとともに、心身の健全な発達と相互の交流を深める契機とする。				
対象者等	マラソンに関心をもっている方（小学生以上）				
内容	区・教育委員会・実行委員会の共催で、次の内容で実施している。 1 実行委員方式で行い、補助金及び参加費で運営。 2 区報等で参加募集をして、小学生から高齢者まで参加。（参加費：一般1000円 中学生以下300円） 3 例年は11月の第3週で、定員を2,000名とし、荒川河川敷（区営少年運動場）で実施予定している。 4 2・3・5・10kmのコースで、2kmふれあいマラソンは、性別・年齢に関係なく参加できる。				
経過	・平成4年 区政60周年記念行事として開催 ・平成8年度 障害者を受入れ、平成9年度には車椅子、10年度には電動車椅子の参加を認める ・平成15年度 参加資格を区外の方（100名）でも参加できるよう変更した ・平成16年度 東京都青年会議所荒川区委員会の協力を得る ・平成18年度 東京都障害者スポーツ指導員協議会荒川の協力を得る ・平成19年度 区制75周年行事として、瀬古利彦さんを招待、記念メダル、東京都トラック協会より参加賞の協賛 平成20年度より参加募集を区内1,200名・区外200名とした ・平成21年度より荒川区レクリエーション協会、荒川区青年団体連合会の協力を得る。自動計測ICチップの導入をし、平成22年度より参加募集を区内1,800名・区外200名とした				
必要性	マラソンは最もメジャーなスポーツで多世代に渡り人気があるため、行政が大会を主催することにより、区民全員が参加できる機会を設ける必要性は高い。				
実施方法	（1直営） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員） 実行委員会方式で実施（荒川リバーサイドマラソン実行委員会） 規約に基づき、体育指導委員会・陸上競技協会を中心に、東京荒川ライオンズクラブの協賛も得ている。 区は実行委員会に対し、補助金を交付している。 参加費は平成9年度まで200円（保険料相当額）で行っていたが、10年度より受益者負担の適正化、寄付収入の減少等の理由から、一般700円・中学生以下300円とした。平成21年度ICチップ導入により、一般を1000円とし、障がい者、中学生 駅伝参加者を招待選手とした。				

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
予算額	1,340	1,340	1,373	1,640	2,430	2,582	2,582	
決算額（23年度は見込み）	1,340	1,339	1,365	1,636	2,430	2,579	2,582	
人件費等	5,171	4,270	4,270	4,659	4,886	6,104		
減価償却費						2,034		
【事務分担量】（%）	60	50	50	55	60	70		
合計（+ +）	6,511	5,609	5,635	6,295	7,316	8,683	2,582	
国（特定財源）								
都（特定財源）								
その他（特定財源）								
一般財源	6,511	5,609	5,635	6,295	7,316	8,683	2,582	
実績の推移	事項名							
	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
参加申込者数（人）	1,050	1,160	1,372	1,574	1,741	2,092	2,150	
当日参加者数（人）	942	956	1,195	1,105	1,588	1,911	1,950	

事務事業分析シート（平成23年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成21年度（決算）		平成22年度（決算）		平成22年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	負担金	実行委員会補助		2,430	実行委員会補助	2,579	実行委員会補助

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		20年度	21年度	22年度	23年度	目標値 (25年度)	
標	当日参加者数（人）	1,105	1,588	1,911	1,950	2,000	当日の参加者数

（問題点・課題）	（指標分析）	<ul style="list-style-type: none"> ・陸上競技協会などから将来的にはロードレースを開催したいといった要望があるが、区内で適した場所があるかの候補地の選定、またその地元の協力を得るための説明会等の実施、地元警察・消防への協力要請等の調整が必要である。 ・タイムの微妙な誤差を改善するためICチップによるタイム計測を導入した。記録記載入りの記録証を即時交付できるなど利点があったが、チップ回収については、当初ゼッケンからはずしにくいなどの意見があったが、22年度は見やすいようにゼッケンの前部分に取り付けたため解消された。 ・例年運営スタッフの確保が困難であり、スタッフ数も不足している。安全確保の面からスタッフの増員も必要である。今後参加者が増大していけば、専門の業者にゆだねる検討も必要と思われる。
他区の実況		（実施 10 区 未実施 12 区）

問題点・課題の改善策検討	
平成24年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
ICチップ導入により計測業務の改善で記録証を即日交付できたが、スタート時の誤差の改善が必要と思われる。	スタート時の整列でのトラブル、混乱が改善される。
参加者が増加することに伴い、スタッフ不足とならないよう、スタッフ募集の方策を検討する。	スタッフの確保により、安全で円滑な運営が期待できる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
重点的に推進	重点的に推進	年々参加者が増加している区の主要なスポーツイベント。規模が拡大していることから、実施方法等を安全で魅力的に充実させていく必要がある。

（状況）	（要旨）	
------	------	--

事務事業分析シート（平成23年度）

No1

事務事業名	子どもたちの運動能力アップ推進事業	部課名	教育委員会事務局社会体育課	課長名	泉谷 清文
		担当者名	市川 清	内線	3374
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（23年度）	子どもたちの運動能力アップ推進事業（01-03-13）				
事務事業の種類	新規事業（23年度 22年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和 平成	12年度	根拠	スポーツ振興法第七条	
終期設定	有 無	年度	法令等		
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市[]			
	政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]			
	施策	生涯スポーツの推進[04-14]			
目的	運動好きな子どもは生活態度も積極的になり、スポーツのみならず学力の向上にもつながる。そこで、遊び感覚で運動能力を身に付けることにより、運動好きな子どもを育てるプログラムを実施する。				
対象者等	小学校の児童等				
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・「子ども体力アップトレーニング あ・ら・か・わ」事業の実施 運動が嫌い・苦手な子どもたちを、遊びの要素を取り入れながら、楽しみながら知らない間に身体が動き、運動が好きになる「子ども体力アップトレーニング」を実施する。フープ・スティック・ボール・なわ・頭脳トレーニングのカリキュラムで行う。 小学校から実施希望を募り、実施に向けてのヒアリングを行い、実施校を選定する。 ・指導者の育成 「子ども体力アップトレーニング」を小学校で指導するために、体育指導員等を講習会に参加させ、知識を学びプログラムを理解し、実際に子どもたちの前で指導ができる指導者を育成する。 				
経過	<ul style="list-style-type: none"> ・平成19年度全国学力・学習状況調査によれば、「スポーツをすることが好きか」などスポーツ関係の質問で、荒川区の児童は東京都、全国平均のいずれよりも消極的な回答が上回っている。このような状況を解消するため、事業展開する。 ・平成20年度に、モデル校1校で事業を展開。一定の効果を得ることができた。 ・平成21年度、4校実施。指導者育成講習会を1度開催。 ・平成22年度、4校実施。フォローアップ4校実施 				
必要性	運動好きな子どもを増やすことで、生活態度や学力の向上につなげる。また、生涯を通じてスポーツを行うきっかけとなる。				
実施方法	（1直営） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員） <ul style="list-style-type: none"> ・体育指導員等を指導者として育成する。 ・学校から実施希望を募り、実施校を選定し、事業を展開する。 				

		（単位：千円）						
		17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
予算・決算額等の推移	予算額				764	846	1,958	1,841
	決算額（23年度は見込み）				590	822	1,581	1,841
	人件費等				1,271	2,443	2,616	
	減価償却費						872	
	【事務分担量】（%）				15	30	30	
	合計（+ +）	0	0	0	1,861	3,265	5,069	1,841
	国（特定財源）							
	都（特定財源）							
	その他（特定財源）							
	一般財源	0	0	0	1,861	3,265	5,069	1,841
実績の推移	事項名	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
	実施校				1	4	4	4
	フォローアップ実施校						4	4

事務事業分析シート（平成23年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成21年度（決算）		平成22年度（決算）		平成23年度（予算）	
		主な事項		主な事項		主な事項	
		金額（千円）	金額（千円）	金額（千円）	金額（千円）	金額（千円）	金額（千円）
	報償費	指導者指導料	612	指導者指導料	588	指導者指導料	918
	一般需用費	プログラム用消耗品	111	プログラム用消耗品	606	プログラム用消耗品	455
	役務費	トレーニング参加者保険料	49	トレーニング参加者保険料	96	トレーニング参加者保険料	125
	委託料	指導者講習会委託料	50	フォローアップ指導等委託料	291	フォローアップ指導等委託料	343

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		20年度	21年度	22年度	23年度	目標値 (25年度)	
	事業参加者数（人）	33	89	190	200	240	児童20人×新規実施校数 児童30人×フォローアップ実施校数
	指導者数（人）	7	12	16	17	20	

（問題点・課題分析）	<p>子どもたちに、運動することが定着するような仕掛けが必要である。運動をすることのきっかけづくりとしての役割は果たしているが、事業を実施したあとの定着の展開を学校と調整し、指導者の問題や展開させる方法について、検討する必要がある。</p>
他区の実況	（実施 0 区 未実施 22 区）

問題点・課題の改善策検討	
平成24年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
事業を実施したことで終わりではなく、その後につなげる方法や仕組みを構築する必要がある。	子どもたちに運動するということを、定着させることができる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
重点的に推進	重点的に推進	子どもの運動能力低下と運動離れに対処し、楽しみながら子どもに運動を好きにさせる取組みとして必要性が高い。

況議会 （要質問 状）	
-------------------	--

事務事業分析シート（平成23年度）

No1

事務事業名	体育の日記念行事	部課名	教育委員会事務局社会体育課	課長名	泉谷 清文
		担当者名	磯谷恵子	内線	3374
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（23年度）	その他振興費（体育の日記念行事）（01-03-14）				
事務事業の種類	新規事業（23年度 22年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和	平成	55年度	根拠法令等	スポーツ振興法第5条
終期設定	有	無	年度		
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市[]			
	政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]			
	施策	生涯スポーツの推進[04-14]			
目的	・体育の日において、広く区民の間にスポーツに対する理解と関心を深め、かつ積極的にスポーツをする意欲を高揚するよう、行事を実施する。 ・体育の日に、区内の体育関係施設において、スポーツに参加できる場を提供することにより、スポーツの振興を図る。				
対象者等	日頃スポーツをする意欲はあるが、スポーツをする機会が無い（少ない）、区内在住・在勤・在学者				
内容	・区民体育大会開会式 ・スポーツ教室（バドミントン、ビーチボール、卓球、剣道、柔道、ビームライフル、弓道、テニス、ソフトテニス、ゲートボール、軟式野球、子ども釣り教室等） ・イベント（体カテスト、区民ラジオ体操会） ・体育施設無料開放（荒川総合スポーツセンター、あらかわ遊園スポーツハウス、区所有の民間施設）				
経過	体育の日記念行事として、生涯スポーツフェスティバル実行委員会主催の、体育協会加盟団体によるスポーツ教室等も実施している。 平成19年度 武道団体による模範演舞 平成20年度 ミニバスケット交流大会 平成21年度 武道団体による武道を全部見せるぞ（模範演舞） 平成22年度 ミニテニス・ビーチボール・バドミントン・キンボールスポーツ等教室として開放				
必要性	スポーツ振興法第5条に基づき、区民体育大会開会式や、スポーツ教室及び施設無料開放を実施しており、参加者が毎年3,000人前後となっている、区民に定着した事業であることから、必要性は高い。				
実施方法	（一部委託） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員） ・体育の日記念行事運営業務・補助金交付 補助金交付先：荒川区体育協会 ・体育の日記念行事オッソ日暮里施設開放運営業務委託 委託先：㈱トビーレック 委託額70,000円 区報、チラシ等で周知 補助金交付・委託契約締結 運営委員会開催 各関係団体等連絡調整				

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
予算額	905	909	929	971	1,036	978	1,075	
決算額（23年度は見込み）	901	909	929	883	1,035	978	1,075	
人件費等	3,017	4,697	4,270	4,235	1,629	2,180		
減価償却費						726		
【事務分担量】（%）	35	55	50	50	20	25		
合計（+ +）	3,918	5,606	5,199	5,118	2,664	978	1,075	
国（特定財源）								
都（特定財源）								
その他（特定財源）								
一般財源	3,918	5,606	5,199	5,118	2,664	978	1,075	
実績の推移	事項名	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
	体育の日記念行事参加者数（人）	2,798	2,778	2,851	2,919	2,653	2,370	3,000

事務事業分析シート（平成23年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成21年度（決算）		平成22年度（決算）		平成23年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
予算・決算の内訳	委託料	記念行事運営業務委託	499	記念行事運営業務委託	499		
		施設開放運営業務委託	115	施設開放運営業務委託	135	施設開放運営業務委託	165
	使用料	スポーツセンター	215	スポーツセンター	246	スポーツセンター	290
		スポーツハウス	138	スポーツハウス	98	スポーツハウス	99
	消耗品費	救急用品等	68			救急用品等	22
		補助金				記念行事補助金	499

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		20年度	21年度	22年度	23年度	目標値 (25年度)	
	体育の日記念行事参加者数（人）	2,919	2,653	2,370	3,000	3,500	
標							

（問題点・課題分析）	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者数は、当日の天候に左右されるが、多くの区民の参加を促すため、さらなるPRの強化が必要である。 ・有名選手を講師に招いての体操教室やウォークラリー、武道団体による模範演舞等を実施しているが、更に集客効果のある教室やイベントを実施する必要がある。
他区の実況	（実施 17 区 未実施 5 区）

問題点・課題の改善策検討	
平成24年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
スポーツ教室の充実やイベントについて、検討を図っていく。	参加者数の増加が期待できる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
推進	継続	体育の日を記念する事業であり、スポーツ活動への動機付けとなる重要な事業として、今後も継続とする。

議会議決要旨	
--------	--

事務事業分析シート（平成23年度）

No1

事務事業名	その他振興費（スポーツ大賞等）	部課名	教育委員会事務局社会体育課	課長名	泉谷 清文
		担当者名	八頭司 篤	内線	3371
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（23年度）	その他振興費（スポーツ大賞等）（01-03-14）				
事務事業の種類	新規事業（23年度 22年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和 平成	12年度	根拠	荒川区スポーツ大賞要綱・スポーツ振興法第15条	
終期設定	有 無	年度	法令等		
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市[]			
	政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]			
	施策	生涯スポーツの推進[04-14]			
目的	<p>スポーツ大賞：オリンピック、世界選手権等のスポーツ競技大会において優秀な成績を収めた者に対し、荒川区スポーツ大賞を贈り、これを称えることにより、広く区民のスポーツに対する関心を高め、スポーツ活動を奨励し、地域のスポーツ振興に資する。</p> <p>その他：スポーツ施設の利用促進やスポーツイベント等の円滑実施など、区内スポーツの普及・振興を図る。</p>				
対象者等	<p>スポーツ対象：オリンピック、世界選手権等のスポーツ競技大会において優秀な成績を収めた区民</p> <p>その他：区民</p>				
内容	<p>スポーツ大賞：＜特別大賞の対象者＞オリンピック・世界選手権その他これらと同等の国際競技大会において、3位以内の入賞等、特に優秀な成績を収めた個人または団体。</p> <p>＜大賞の対象者＞オリンピック等において入賞し、または国民体育大会・全日本選手権大会その他これらと同等の国内競技大会において、優勝し、もしくはこれに準ずる成績を収める等、優秀な成績を収めた個人又は団体。どちらの賞もプロスポーツについては、特に優秀な成績を収めたものを個別に審査し、対象とするかどうかを決定する。</p> <p>その他：区内スポーツ施設の場所や利用方法を記載した「あらかわの社会体育」の発行や、緊急的にスポーツイベント等で必要な物品の調達などを行う。なお、21年度までの予算・決算額は、「体育の日記念行事」内に含まれている。</p>				
経過	<p>スポーツ大賞：</p> <p>平成12年10月9日 北島康介選手に大賞授与～表彰状・記念品（ｸﾘｽﾀﾙｶｯﾌﾟ）・褒賞金（10万円）</p> <p>平成13年4月19日 セレス小林選手に特別大賞授与～表彰盾・記念品（ﾃﾞｼﾞﾀﾙｶﾌﾞ）</p> <p>平成13年8月20日 北島康介選手に特別大賞授与～表彰盾・記念品（ﾃﾞｼﾞﾀﾙｶﾌﾞ）</p> <p>平成20年10月9日 志村亜貴子選手に特別大賞授与～表彰盾・記念品（ｽﾚｯﾄﾞｰ式・ｳｵｰｸﾞﾏﾝ・硬式ﾎﾞｰﾙ）</p>				
必要性	<p>スポーツ大賞：区内のスポーツ振興のため、スポーツ競技大会において優秀な成績を収めた者を表彰し、区民のスポーツに対する関心を高める必要がある</p> <p>その他：スポーツ施設の紹介など、区内のスポーツ振興を図るため、必要性が高い。</p>				
実施方法	<p>（1直営）（直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員）</p> <p>スポーツ大賞：</p> <p>審査会（会長／副区長、副会長／教育長、委員／総務企画部長・区民生活部長・教育部長）の開催。</p> <p>出席委員の過半数で議事を決する。可否同数の時は会長が決する。</p> <p>審査会の庶務は教育委員会事務局社会体育課で処理する。</p> <p>その他：必要に応じて社会体育課が実施する。</p>				

		（単位：千円）						
		17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
予算・決算額等の推移	予算額	50	50	50	478	0	478	402
	決算額（23年度は見込み）	0	0	0	202	0	457	402
	人件費等	1,724	427	427	424	407	436	
	減価償却費						145	
	【事務分担量】（％）	20	5	5	5	5	5	
	合計（+ +）	1,724	427	427	626	407	1,038	402
	国（特定財源）							
	都（特定財源）							
	その他（特定財源）							
	一般財源	1,724	427	427	626	407	1,038	402
実績の推移	事項名	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
	スポーツ大賞等受賞者数	0	0	0	1	0	0	

事務事業分析シート（平成23年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成21年度（決算）		平成22年度（決算）		平成23年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
		賄費	スポーツ大賞授与式賄	0	スポーツ大賞授与式賄	0	スポーツ大賞授与式賄
一般需用	スポーツ大賞 表彰盾	0	スポーツ大賞 表彰盾	0	スポーツ大賞 表彰盾	0	
	スポーツ大賞 記念品	0	スポーツ大賞 記念品	0	スポーツ大賞 記念品	0	
	区長表敬訪問 花束	0	区長表敬訪問 花束	0	区長表敬訪問 花束	0	
			色上質紙・プリンター他	113	写真プリント用インク・台紙	50	
			あらかわの社会体育他	141	あらかわの社会体育印刷	135	
役務費			寄付感謝状筆耕	3	ゼッケン洗濯	12	
使用料及び賃借料			無線機レンタル料	200	無線機レンタル料	205	

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		20年度	21年度	22年度	23年度	目標値 (25年度)	
	スポーツ大賞受賞者数	/	/	/	/	/	対象者が未知数のため、目標値は立てない
	スポーツ特別大賞受賞者数	1	/	/	/	/	対象者が未知数のため、目標値は立てない

（問題点・課題分析）	
他区の実況	（実施 9 区 未実施 13 区） スポーツ大賞：実施区 港・墨田・中野・杉並・豊島・板橋・足立・葛飾・江戸川区

問題点・課題の改善策検討		
	平成24年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
	スポーツの競技大会において優秀な成績を収めた者を体育協会の協力を得て発見し、広く区民に周知する。	区民のスポーツに対する関心を高め、選手の競技にたいしての士気が高められ練習の励みとなる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
推進	継続	スポーツ普及奨励と技術向上、区民意識を高める本事業は、競技スポーツ活性化の指標として今後も継続する。

議会議決要旨	
--------	--

事務事業分析シート（平成23年度）

No1

事務事業名	城北五区親善大会	部課名	教育委員会事務局社会体育課	課長名	泉谷 清文
		担当者名	八頭司 篤	内線	3371
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（23年度）	その他振興費（城北五区親善大会）（01-03-14）				
事務事業の種類	新規事業（23年度 22年度）	建設事業	それ以外の継続事業		
開始年度	昭和 平成 25 年度	根拠	城北地区社会体育振興協議会規約		
終期設定	有 無 年度	法令等			
実施基準	法令基準内 都基準内 区独自基準	計画区分	計画	非計画	
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市[]			
	政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]			
	施策	生涯スポーツの推進[04-14]			
目的	城北地区の社会体育振興を図るため、区の代表選手による対抗試合を開催し、各区の親善と競技の向上を図る。				
対象者等	柔道会・剣道連盟・ソフトテニス連盟・卓球連盟からの選出者				
内容	豊島・北・板橋・練馬・荒川の五区の代表選手による親善試合を開催する。種目は、柔道・剣道・バレーボール・ソフトテニス・陸上競技・卓球の6競技。ただし、荒川区はバレーボールと陸上競技には参加していない。大会は、各区持ち回りで開催する。担当区の競技団体が運営にあたる。 （荒川区担当年度） 平成17年度…ソフトテニス・卓球 平成18年度…剣道 平成19年度…担当者会議 平成21年度…柔道 平成22年度…卓球・ソフトテニス 平成23年度…剣道 平成24年度…担当者会議 平成26年度…柔道				
経過	・城北地区の社会体育振興を図るため、約60年前に事業を開始した。 ・城北地区の社会体育の情報を交換するため、各区教育委員会職員を構成員とする意見交換も開催している。 ・柔道・剣道・バレーボール・ソフトテニス・卓球・陸上競技の6競技大会があるが、種目は増やさないことで各区と合意している。 ・大会は、担当区の競技団体が主管・運営する。 ・職員研究会は、当番区の教育委員会が主管・運営する。				
必要性	昭和25年より実施されている歴史ある親善大会であるため、大会に出場することは選手の励みとなっている。				
実施方法	（1直営）（直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員） ・種目に応じ、5年に1度当番区とし大会を主催する。 ・担当区ではない年度は、各区に代表選手を派遣する。				

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
予算額	421	271	20	20	271	372	232	
決算額（23年度は見込み）	421	231	20	20	270	367	232	
人件費等	1,724	2,562	2,135	2,118	1,629	1,744		
減価償却費						581		
【事務分担量】（%）	20	30	25	25	20	20		
合計（+ +）	2,145	2,793	2,155	2,138	1,899	2,692	232	
国（特定財源）								
都（特定財源）								
その他（特定財源）								
一般財源	2,145	2,793	2,155	2,138	1,899	2,692	232	
実績の推移	事項名	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
	大会成績 柔道（青年の部/少年の部）	優勝/順位なし	準優勝/順位なし	順位なし	順位なし	優勝/順位なし	準優勝/順位なし	
	剣道	4位	4位	5位	5位	5位	5位	
	ソフトテニス	優勝	3位	3位	3位	2位	優勝	
	卓球	3位	4位	4位	4位	4位	4位	

事務事業分析シート（平成23年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成21年度（決算）		平成22年度（決算）		平成23年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	負担金補助及び交付金	分担金（@5,000×3種目）	15	分担金（@5,000×2種目）	10	分担金（@5,000×3種目）	15
委託料	（150,000×1種目）	150	（150,000×2種目）	300	（150,000×1種目）	150	
使用料及び賃借料	使用料	106	使用料	57	使用料	67	

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		20年度	21年度	22年度	23年度	目標値 (25年度)	
標	荒川区主催親善大会数	0	1	2	1	0	17年度（卓球・ソフトテニス）、18年度（剣道）、21年度（柔道）、22年度（ソフトテニス）(卓球)、23年度（剣道）
	親善大会参加区数	5区	5区	5区	5区	5区	

（問題点・課題）	<p>・競技運営の担当区は、持ち回りで実施しているため、担当区でなければ1種目5千円の分担金で済む。なお、担当区になった時は、1種目につき会場費負担のため、15～25万円の大会運営費が必要になる。</p> <p>・現在、荒川区の参加競技は4種目と限定しているが、他競技でも参加希望団体が出てくる可能性がある。</p> <p>*（平成15年度事務担当者会議で平成26年度までの当番区を決定）</p>
他区の実況	<p style="text-align: center;">（実施 9 区 未実施 13 区）</p> <p>墨東五区大会 墨田・江東・足立・葛飾・江戸川区（昭和16年度頃開始）</p>

問題点・課題の改善策検討	
平成24年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
<p>歴史ある大会を維持しつつ、新たに、だれもが参加しやすいように、ニュースポーツ（ミニテニス等）を取り入れることも視野に入れて考える。</p>	<p>城北五区親善大会が、より多くの区民に親しまれる大会となる。</p>

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
継続	継続	<p>競技力の向上、青少年の健全育成、スポーツ振興にもつなげる近隣区との競技の交流を継続して支援する。</p>

議会議況（要旨）	
----------	--

事務事業分析シート（平成23年度）

No1

事務事業名	東京都釣魚大会	部課名	教育委員会事務局社会体育課	課長名	泉谷 清文
		担当者名	和田 光子	内線	3372
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（23年度）	その他振興費（東京都釣魚大会）（01-03-14）				
事務事業の種類	新規事業（23年度 22年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和 平成	26 年度	根拠	都民体育大会等荒川区代表選手派遣補助金等交付要綱に準じる	
終期設定	有 無	年度	法令等		
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市[]			
	政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]			
	施策	生涯スポーツの推進[04-14]			
目的	釣魚大会に代表選手を派遣することにより、区民の技術向上、相互交流を深め、もって荒川区のスポーツ振興を図る目的とする。				
対象者等	荒川区釣魚連合会主催の予選会により、選出された代表選手。 平成22年度（フナ、ハゼともに）選手8名・世話人2名・合計10名				
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・荒川区選手団の大会参加のための交通費を補助している。 （大会内容） ・区市単位に選出された代表選手が、各地区団体競技ならびに個人競技をあわせて行う。 フナ・ハゼともに総重量で順位を決定する。 ・実施時期 フナは4月、ハゼは9月に実施 				
経過	<ul style="list-style-type: none"> ・東京都釣魚連合会は東京都体育協会未加盟の任意団体であるが、東京都教育委員会・東京都レクリエーション連盟の後援を受け事業を実施している。荒川区も当事業に対して「都民体育大会等荒川区代表選手派遣補助金等交付要綱」に準じた事業と認め、荒川区フナ・ハゼ釣選手権大会「東京都フナ・ハゼ釣選手権大会予選」で選出された選手・世話人を当事業に派遣し、その所要経費を補助する。 				
必要性	歴史ある大会への参加により、選手自身の励みとなるとともに、さらなる技術力向上につながるため。				
実施方法	（3委託） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員） 荒川区釣魚連合会に委託し、表選手派遣を行っている。 第59回東京都フナ釣り選手権大会に伴う選手派遣の補助金@4,500×10人=45,000(22年度) 第59回東京都ハゼ釣り選手権大会に伴う選手派遣の補助金@5,500×10人=55,000(22年度)				

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
予算額	100	100	100	100	100	100	100	
決算額（23年度は見込み）	100	100	100	100	100	100	100	
人件費等	2,155	854	854	847	407	436		
減価償却費						145		
【事務分担当】（%）	30	15	15	15	30	5		
合計（+ +）	2,255	954	954	947	507	681	100	
国（特定財源）								
都（特定財源）								
その他（特定財源）								
一般財源	2,255	954	954	947	507	681	100	
実績の推移	事項名							
	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
フナ（団体）順位	12	2	6	7	10	2		
フナ（個人）順位	33	3	11	16	36	3		
ハゼ（団体）順位	5	2	1	3	6	3		
ハゼ（個人）順位	12	2	1	1	13	2		

事務事業分析シート（平成23年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成21年度（決算）		平成22年度（決算）		平成23年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
		負担金補助及び交付金	フナ釣	45	フナ釣	45	フナ釣
負担金補助及び交付金	ハゼ釣	55	ハゼ釣	55	ハゼ釣	55	

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		20年度	21年度	22年度	23年度	目標値 (25年度)	
	派遣人数	20人	20人	20人	20人	20人	代表選手 フナ釣10人・ハゼ釣10人

（問題点・課題分析）	釣魚人口の高齢化に伴い選手層が薄くなる傾向がある。
他区の実況	（実施 22 区 未実施 0 区） 都民体育大会同様の位置付けで、各区が派遣している。

問題点・課題の改善策検討													
	平成24年度以降に取り組む具体的な改善内容												
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 50%;"></th> <th style="text-align: center;">改善により期待する効果</th> </tr> <tr> <td> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;"></td> <td> <p>広報誌などにより広く区民にPRし区民大会を成功させるとともに、優秀な選手を育成する。</p> </td> </tr> <tr> <td></td> <td> <p>都の大会で、好成績が期待できる。好成績になることで、さらなる活性化と選手の励みとなる。</p> </td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </table> </td> <td></td> </tr> </table>		改善により期待する効果	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;"></td> <td> <p>広報誌などにより広く区民にPRし区民大会を成功させるとともに、優秀な選手を育成する。</p> </td> </tr> <tr> <td></td> <td> <p>都の大会で、好成績が期待できる。好成績になることで、さらなる活性化と選手の励みとなる。</p> </td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </table>		<p>広報誌などにより広く区民にPRし区民大会を成功させるとともに、優秀な選手を育成する。</p>		<p>都の大会で、好成績が期待できる。好成績になることで、さらなる活性化と選手の励みとなる。</p>					
	改善により期待する効果												
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;"></td> <td> <p>広報誌などにより広く区民にPRし区民大会を成功させるとともに、優秀な選手を育成する。</p> </td> </tr> <tr> <td></td> <td> <p>都の大会で、好成績が期待できる。好成績になることで、さらなる活性化と選手の励みとなる。</p> </td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </table>		<p>広報誌などにより広く区民にPRし区民大会を成功させるとともに、優秀な選手を育成する。</p>		<p>都の大会で、好成績が期待できる。好成績になることで、さらなる活性化と選手の励みとなる。</p>									
	<p>広報誌などにより広く区民にPRし区民大会を成功させるとともに、優秀な選手を育成する。</p>												
	<p>都の大会で、好成績が期待できる。好成績になることで、さらなる活性化と選手の励みとなる。</p>												

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
継続	継続	競技意欲の向上が図られることから維持する。

況議 （要 旨） 問 状	
--------------------------	--

事務事業分析シート（平成23年度）

No1

事務事業名	友好都市スポーツ交流事業	部課名	教育委員会事務局社会体育課	課長名	泉谷 清文
		担当者名	白石 政昭	内線	3372
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（23年度）	その他振興費（友好都市スポーツ交流事業）（01-03-14）				
事務事業の種類	新規事業（23年度 22年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和 平成	22年度	根拠	スポーツ振興法第7条及び第8条	
終期設定	有 無	年度	法令等		
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市[]			
	政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]			
	施策	生涯スポーツの推進[04-14]			
目的	交流都市である「つくば市」のスポーツ団体と荒川区のスポーツ団体との交流試合などを行い、スポーツ面での交流を深めるとともに、スポーツ交流を通じて、荒川区のスポーツ団体の競技力の向上を図る。				
対象者等	区内のスポーツ団体				
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・区内のスポーツ団体とつくば市のスポーツ団体との交流試合をつくば市で行うため、バスを借上げる。 ・22年度は、少年野球とサッカーの交流試合を実施した。 				
経過	<ul style="list-style-type: none"> ・21年度に文化交流推進課の友好都市交流事業として、サッカー交流と少年野球交流会を実施した。 ・22年度からは、スポーツ交流を通じて荒川区のスポーツ団体の競技力の向上を図り、生涯スポーツの推進に寄与するため、所管課において事業を実施することとした。 				
必要性	・地域の異なる団体とのスポーツ交流を続けることで、荒川区のスポーツ団体の競技力を高めることが期待できる。				
実施方法	（1直営） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員） 荒川区のスポーツ団体に協力を要請し、バスを借上げて各団体の選手をつくば市に派遣する。				

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
予算額						166	310	
決算額（23年度は見込み）						157	310	
人件費等						436		
減価償却費						145		
【事務分担当】（%）						5		
合計（+ +）	0	0	0	0	0	738	310	
国（特定財源）								
都（特定財源）								
その他（特定財源）								
一般財源	0	0	0	0	0	738	310	
実績の推移								
	事項名	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
	交流派遣人数						80	90

事務事業分析シート（平成23年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成21年度（決算）		平成22年度（決算）		平成23年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	賄費					交流都市事業賄い	55
	役務費			参加者保険料	3	参加者保険料	18
	使用料及び賃借料			スポーツ交流事業	154	スポーツ交流事業	237

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		20年度	21年度	22年度	23年度	目標値 (25年度)	
	交流派遣人数			80	90	100	

（問題点・課題）	交流開催地を、つくば市と荒川区で交互に行うことが、交流を一層深めることになる。
他区の実況	（実施区 未実施区）

問題点・課題の改善策検討	
平成24年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
推進	推進	交流都市のつくば市と少年野球やサッカーの親善試合を行い、相互のスポーツ振興及び親睦を深めるため実施する

議会議況（要旨）	
----------	--

事務事業分析シート（平成23年度）

No1

事務事業名	区民体育大会	部課名	教育委員会事務局社会体育課	課長名	泉谷清文
		担当者名	市川 清	内線	3374
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（23年度）	区民体育大会(01-04-01)				
事務事業の種類	新規事業（23年度 22年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和 平成	25 年度	根拠	スポーツ振興法第7条	
終期設定	有 無		法令等		
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市[]			
	政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]			
	施策	生涯スポーツの推進[04-14]			
目的	「スポーツの祭典」として区民体育大会を開催し、広く区民の間にスポーツを普及し、区民の健康増進と体力の向上を図る。また、区民のスポーツ活動の成果を発揮する機会を提供し、区民相互の交流を深める。				
対象者等	区内在住・在勤・在学者				
内容	<p>1. 区体育協会との共催、区体育協会加盟の各競技団体が主管として運営にあたる。</p> <p>2. 区報等による参加者募集、区内各学校（小・中学校・高校ほか）等への周知を行う。</p> <p>3. 区体育協会とともに運営委員会を開会し、競技要項の審査等を行う。</p> <p>4. 競技要項・プログラム作成や、入賞メダル・優勝杯・その他大会用品の購入を行い、各団体へ配付する。</p> <p>5. 区内体育施設（総合スポーツセンター、区営グラウンド等）を競技会場として予約・申請する。区外の競技会場については、各競技団体に調整を依頼する。</p> <p>【競技種目】 平成23年度</p> <p><夏季大会>水泳</p> <p><秋季大会>陸上・サッカー・卓球・テニス・ソフトテニス・軟式野球・バスケボール・バドミントン・バレーボール・合気道・居合道・空手道・弓道・剣道・少林寺拳法・柔道・射撃・ライフル射撃・ゲートボール・ボウリング・ビリヤード・釣魚・フットサル・ミニテニス・キックボクシング・ゴルフ</p> <p>（計25競技）</p> <p><冬季大会>スキー</p>				
経過	昭和26年度からｽｰﾀﾞｰ競技を実施。平成10年度からビリヤード・バレー（平成17年度よりビリヤードに名称変更）競技を実施。平成11年度から参加賞（バッジ）の贈呈を廃止し、競技要項印刷の外部発注を庁内印刷に変更。平成12年度から競技プログラム印刷の外部発注を庁内印刷に変更。これに伴い、同プログラムの版下原稿作成の外部発注についても、区体育協会加盟の各競技団体への依頼に変更。平成12年度から参加費（原則、一般500円、中学生以下200円）を徴収。平成17年度からボウリング競技は王子駅前サウスアールに会場変更。平成17年度からフットサル競技、平成20年度からミニテニス競技、平成22年度からキックボクシング競技を実施。				
必要性	広く区民の間にスポーツを普及し、区民の健康増進と体力の向上を図るとともに、区民の日頃のスポーツ活動の成果を発揮し、区民相互の交流を深める機会を提供するため、区民体育大会の実施は必要である。				
実施方法	<p>（2一部委託）（直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員）</p> <p>大会の実施に際し必要な経費を支出し、各競技会の運営について総務的事務を行う。大会運営（事前準備・審判・記録・成績報告書作成等）は、区体育協会加盟の各競技団体に委託する。区体育協会は大会運営委員会を主催し、各競技団体を主管・調整する。</p> <p>【委託業務名】区民体育大会 競技運営業務委託 【委託先】区体育協会加盟の各競技団体</p> <p>【委託料】計 3,147,690円</p>				

		（単位：千円）						
		17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
予算・決算額等の推移	予算額	6,525	7,134	7,152	7,728	7,546	7,946	7,754
	決算額（23年度は見込み）	6,346	6,935	6,917	7,505	7,444	7,748	7,754
	人件費等	5,171	7,259	6,405	6,353	4,072	4,360	
	減価償却費						1,453	
	【事務分担当】（%）	60	85	75	75	50	50	
	合計（+ +）	11,517	14,194	13,322	13,858	11,516	12,108	7,754
	国（特定財源）							
	都（特定財源）							
	その他（特定財源）							
	一般財源	11,517	14,194	13,322	13,858	11,516	12,108	7,754
実績の推移	事項名	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
	参加選手数【夏季大会】	474	539	451	481	497	428	550
	【秋季大会】	6,726	6,807	6,686	6,928	6,792	6,660	6,800
	【冬季大会】	37	31	33	24	28	24	50

事務事業分析シート（平成23年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成21年度（決算）		平成22年度（決算）		平成23年度（予算）	
		主な事項		主な事項		主な事項	
		金額（千円）		金額（千円）		金額（千円）	
	職員旅費	スキー競技会旅費	39	スキー競技会旅費	39	スキー競技会旅費	40
	一般需要費	消耗品（競技用品）等	1,769	消耗品（競技用品）等	2,014	消耗品（競技用品）等	1,807
	委託料	大会運営業務委託	3,068	大会運営業務委託	3,148	大会運営業務委託	3,148
	使用料及び賃借料	会場使用料等	2,568	会場使用料等	2,547	会場使用料等	2,759

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		20年度	21年度	22年度	23年度	目標値 (25年度)	
	参加選手数	7,433	7,317	7,112	7,400	8,000	延べ参加選手数（兼役員を含む）

（問題点・課題分析）	陸上競技会、スキー競技会（特に青年の部）の参加選手数が年々減少している。
他区の実況	（実施 22 区 未実施 0 区）

問題点・課題の改善策検討	
平成24年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
引き続き区報・関係機関へのチラシ配付等を行い、参加選手を募集する。また、各競技団体との連携を強化し、より効果的なPR方法を検討し実施する。ホームページ・ホットタウン紙を利用し周知する。	参加選手数の増加が期待できる。
少子高齢化の状況、また、練習の成果を生かす場として、選手がより大会に参加しやすくするため、各競技内容等に応じた年齢区分や種目の見直しを検討していく。特に、スキー競技会については、オープン参加として、ジュニア部門を新設する。	参加選手数の増加が期待できる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
推進	推進	区民のスポーツ振興、競技意識、競技レベルの向上を目指すため、極めて重要な区内のスポーツ事業である。

議会議況（要旨）	
----------	--

事務事業分析シート（平成23年度）

No1

事務事業名	区営運動場管理費	部課名	教育委員会事務局社会体育課	課長名	泉谷 清文
		担当者名	和田 光子	内線	3372
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（23年度）	区営運動場管理費（01-02-01）				
事務事業の種類	新規事業（23年度 22年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和	平成	34年度	根拠	スポーツ振興法第3条・荒川区営運動場の設置・管理に関する条例及び施行規則
終期設定	有	無	年度	法令等	
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市[]			
	政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]			
	施策	生涯スポーツの推進[04-14]			
目的	*1区民運動場、東尾久運動場（テニスコート5面・多目的広場・多目的広場第二・小広場・3オン3コート）、南千住野球場（2面）、西新井橋野球場（大人用5面）、少年運動場（サッカー場1面・少年野球場7面）、*2荒川遊園運動場（多目的広場）を維持・管理し、区民のスポーツ振興に寄与する。 *1区民運動場は平成23年4月～26年度（終期は未定）の間、尾久八幡中学校建替工事に伴い休場 *2荒川遊園運動場は23年度より公園緑地課より所管替				
対象者等	全区民				
内容	グランド・テニスコート等の補修・整備（石灰補充、し尿処理、土入れ補修等含む） グランド・テニスコート等の貸出し、少年運動場・西新井橋野球場駐車場管理 備品・消耗品等購入及び修繕 光熱水費・電話料金等の支払い（管理棟の維持管理）				
経過	南千住野球場	少年・西新井橋野球場	東尾久運動場	区民運動場	荒川遊園運動場
	管理・補修	管理・補修・駐車場管理	管理・補修	管理・補修	管理・補修
平成18年度	民間・民間	公園緑地課・民間・シバ-	シバ--民間	シバ--民間	公園緑地課・シバ-
平成19年度	民間・民間	公園緑地課・民間・シバ-	シバ--民間	シバ--民間	公園緑地課・民間
平成20年度	民間・民間	社会体育課・民間・シバ-	シバ--民間	シバ--民間	公園緑地課・民間
平成21年度	民間・民間	社会体育課・民間・シバ-	シバ--民間	シバ--民間	公園緑地課・民間
平成22年度	民間・民間	社会体育課・民間・シバ-	シバ--民間	シバ--民間	公園緑地課・民間
平成23年度	民間・民間	社会体育課・民間・シバ-	シバ--民間	休場	社会体育課・民間
	(管理=管理業務)・(補修=補修業務)		「シバ-」:シバ-人材センター		
必要性	各スポーツ施設を良好な状態に保ち、安全に利用できる状態を確保する。				
実施方法	(2一部委託) (直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員) 管理業務 シバ-人材センター(7,308,954円) 受付業務 TM共同事業体(4,536,000円) 補修業務 北川商会(16,112,019)、外光システム(9,598,144円)、上園緑地建設(2,100,000円) 南千住野球場電気保安管理 関東電気保安協会(206,388)				

		(単位:千円)						
予算・決算額等の推移		17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
		予算額	65,439	66,256	69,625	73,503	73,587	73,472
	決算額(23年度は見込み)	62,734	63,278	66,609	68,898	67,858	67,838	66,324
	人件費等	3,879	8,113	8,113	41,927	40,313	19,012	
	減価償却費						14,235	
	【事務分担量】(%)	45	95	95	495	495	490	
	合計(+ +)	66,613	71,391	74,722	110,825	108,171	101,085	66,324
実績の推移	国(特定財源)							
	都(特定財源)							
	その他(特定財源)							
	一般財源	66,613	71,391	74,722	110,825	108,171	101,085	66,324
	事項名	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
実績の推移	利用件数:少年運動場(野球場)	3,024	2,916	3,391	3,557	3,819	3,771	3,800
	少年運動場(サッカー場)	611	420	799	585	638	652	650
	西新井橋野球場	1,950	1,798	1,931	1,792	1,873	1,922	1,900
	区民運動場 個人/団体	2,028/65	1,960/80	1,358/63	1,851/60	1,069/49	1,190/70	
	東尾久運動場(庭球場)	9,877	9,672	9,699	10,135	10,176	10,100	10,150
	東尾久運動場(多目的広場)	914	1,441	2,380	1,462	1,388	1,507	1,500
	南千住野球場	1,433	1,462	1,431	1,332	1,206	1,487	1,350
荒川遊園運動場							1,050	

事務事業分析シート（平成23年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成21年度（決算）		平成22年度（決算）		平成23年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
		報酬	非常勤職員（ハウス）3人分	6,675	非常勤職員（ハウス）3人分	6,675	非常勤職員（ハウス）3人分
光熱水費	電気・ガス（含プロパン）・水道	5,541	電気・ガス（含プロパン）・水道	5,655	電気・ガス（含プロパン）・水道	7,668	
一般需用費	消耗品・家屋物品修繕費	2,138	消耗品・家屋物品修繕費	2,744	消耗品・家屋物品修繕費	2,456	
役務費	電話・NHK（3台）	153	電話・NHK（3台）	153	電話・NHK（3台）	95	
委託料	運動場補修業務・管理業務等	52,896	運動場補修業務・管理業務等	52,308	運動場補修業務・管理業務等	48,536	
使用料及び賃借料	河川敷工作物等搬出・搬入車両借上げ	315	河川敷工作物等搬出・搬入車両借上げ	0	河川敷工作物等搬出・搬入車両借上げ	735	
備品購入費	東尾久運動場空調	93	物置（少年・西新井橋）	243	空調（西新井橋野球場管理事務所）	63	
償還金利息及び割引料	過年度使用料還付金	47	過年度使用料還付金	60	過年度使用料還付金	96	

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		20年度	21年度	22年度	23年度	目標値 （25年度）	
		1日あたりの利用者数	502人	510人	532人	568人	

（問題点・課題分析）	・施設の付帯設備が老朽化しており補修費が不足する傾向にある。
他区の実況	（実施 22 区 未実施 0 区）

問題点・課題の改善策検討	
平成24年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
運動場全体が老朽化による不具合が生じているので、修繕計画をたて、それに基づき補修等を行っていく。	区民が安全で、使いやすい状態を保つ。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
継続	継続	身近な屋外スポーツ施設として、区民の健康増進及びスポーツ振興を図るため必要な施設を管理する。

況議 （要 旨） 問 状	
--------------------------	--

事務事業分析シート（平成23年度）

No1

事務事業名	荒川総合スポーツセンター 管理運営費	部課名	教育委員会事務局社会体育課	課長名	泉谷 清文
		担当者名	南谷 浩史	内線	3371
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（23年度）	荒川総合スポーツセンター管理運営費（01-01-01）				
事務事業の種類	新規事業（23年度 22年度）		建設事業		それ以外の継続事業
開始年度	昭和 平成	60 年度	根拠	荒川総合スポーツセンター条例・スポーツ振興法第3条	
終期設定	有 無	年度	法令等		
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市[]			
	政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]			
	施策	生涯スポーツの推進[04-14]			
目的	スポーツ及びレクリエーションの普及・振興を図り、健康で文化的な区民生活の向上に寄与する。 平成12年から管理費とその他運営費が統合され、管理運営費となった。				
対象者等	区内在住・在勤・在学及び他区の者等（団体利用者・個人利用者・教室受講者・利用料免除者）				
内容	指定管理者運営 1 階：小体育館(724)・トレーニングルーム(345)・温水プール(990)・コミュニティホール(951)・管理事務室(105)・キッズルーム(158) 中2階：エアライフル場(173) 2 階：大体育館(1,745)・卓球場(463) 3 階：第1武道場(290)・第2武道場(289) 4 階：弓道場(92)・洋室会議室(178)・和室会議室(65)・第1・2クラブ室(60) ()は面積㎡				
経過	<ul style="list-style-type: none"> ・管理運営業務については、開設当初より委託により実施しているが、平成12年度からは区職員の配置廃止に伴い物品・建物修繕業務等も含め委託の業務内容を拡大した。また、平成14年度には開設以来初めて見積競争を実施し、委託料を大幅に削減した。 ・平成17年度より、管理運営業務から清掃業務・設備保守業務・機械警備業務を分割した契約に変更。 ・平成19年度より、指定管理者制度を導入（TM共同事業体）。 ・平成22年度より、TM共同事業体が指定管理期間を更新した。（平成24年度まで） 				
必要性	区民の健康・体力づくりやスポーツに対する関心は、質量ともに高まっており、子どもから高齢者まで豊かなスポーツライフを楽しむための環境づくりが求められている。				
実施方法	（3委託） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員） 22年度指定管理料 （指定管理者）TM共同事業体 （指定管理料）79,188,000円（修繕費）12,986,023円				

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
		17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
予算額		188,390	185,330	105,741	93,120	94,110	94,503	93,880
決算額（23年度は見込み）		181,043	180,262	105,052	92,438	93,076	93,330	93,880
人件費等		2,758	5,551	7,259	6,353	6,922	6,104	
減価償却費							2,034	
【事務分担量】（%）		32	65	85	75	85	70	
合計（+ +）		183,801	185,813	112,311	98,791	99,998	101,468	93,880
国（特定財源）								
都（特定財源）								
その他（特定財源）		74,831	73,128	3,048	3,780	3,840	4,982	0
一般財源		108,970	112,685	109,263	95,011	96,158	96,486	93,880
実績の推移	事項名	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
	利用者数(人)							
	団体利用数	263,453	297,605	228,607	200,145	228,144	184,685	186,532
	個人利用数	127,510	117,268	123,833	133,264	130,615	129,839	131,137
	教室受講者	83,656	83,019	117,857	121,120	119,543	126,626	129,159
	利用料免除者	39,725	40,235	44,866	47,427	47,104	51,209	52,233

事務事業分析シート（平成23年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成21年度（決算）		平成22年度（決算）		平成23年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
		一般需用費	消耗品費	20	消耗品費	158	
委託料	指定管理料・修繕費	92,753	指定管理料・修繕費	93,047	指定管理料・修繕費	93,475	
使用料及び賃借料	券売機リース	226	券売機リース	0			
備品購入費	プロジェクター等	77	水中担架	125	プールフロア	405	

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		20年度	21年度	22年度	23年度	目標値 (25年度)	
標	一日あたりの利用者数（人）	1,402.1	1,467.6	1375.3	1,394	1513.9	稼働日：20年度・年358日 21年度・年358日 22年度・358日
	一人あたりの維持管理コスト（円）	177	170	179	188	173	

（問題点・課題）	<p>利用者数を増加するために、アンケート等による区民の意見をより多く取り入れていく必要がある。また、スポーツすることの爽快感や達成感を伝えることで、新規利用者の増加につなげる必要がある。</p>
他区の実況	（実施 22 区 未実施 0 区）

問題点・課題の改善策検討	
平成24年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
指定管理者に対し、利用者へのサービス・施設の維持管理等、ニーズの積極的導入が適切に行われているかチェックする。	利用者のサービス向上につながる。
新規利用者の獲得のために、スポーツすることの爽快感や達成感を伝えるようなPRを実施する。	スポーツ実施率の向上につながる。
老朽化による不具合を改善するため、長期的な計画営繕を実施する。	利用者が安全かつ快適に施設を利用することができる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
継続	継続	競技大会開催など区内のスポーツ活動の中心となり、健康維持・体力増強等にも活用される施設を管理運営する。

議会議況（要旨）	
----------	--

事務事業分析シート（平成23年度）

No1

事務事業名	荒川総合スポーツセンター各種教室の開催	部課名	教育委員会事務局社会体育課	課長名	泉谷 清文
		担当者名	南谷 浩史	内線	3371
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（23年度）	荒川総合スポーツセンター各種教室の開催				
事務事業の種類	新規事業（23年度 22年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和 平成	60 年度	根拠	荒川総合スポーツセンター条例	
終期設定	有 無	年度	法令等		
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市[]			
	政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]			
	施策	生涯スポーツの推進[04-14]			
目的	スポーツ及びレクリエーションの普及・振興を図り、健康で文化的な区民生活の向上に寄与する。				
対象者等	区内在住・在勤・在学者及び他区居住者等				
内容	<教室・講習会>平成22年度 固定会員制教室（ｽｰｯ教室 / 17種類・30ｺｰｽ）（水泳教室 / 18種類・65ｺｰｽ） 自由会員制教室（ｽｰｯ教室 / 16種類・28ｺｰｽ）（水泳教室 / 3種類・8ｺｰｽ） 短期教室（ｽｰｯ教室 / 3種類・3ｺｰｽ）（水泳教室 / 5種類・8ｺｰｽ） スタジオ定期制教室（16種類・19ｺｰｽ）				
経過	・平成9年度5月の教室受講料の改定に伴い、利用者の負担額の増加による各教室の参加離れを防ぐことを目的として、1期当たりの受講料を引き下げた。現行の水泳教室1期12日間・スポーツ教室1期15日間を1期当たりそれぞれ10日間に変更し、また、短期教室を増設することにより、通常コースへの入会促進と初心者への動機づけをし、教室への参加者の増加を図る事とした。 ・平成12年度からは、スポーツセンターとスポーツハウスを一元化し、民間活力を生かした運営方式（出来高払い方式）に変更した。さらに、利用者の利便を図るために、通年・月謝制を採用した。 ・平成19年度より指定管理者制度を導入し、8月に指定管理者が新設したスタジオを利用した教室を開始。教室運営業務委託料は、指定管理料に含める。				
必要性	区民の健康・体力づくりやスポーツに対する関心をよせるきっかけとなる。				
実施方法	（3委託）（直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員） <各教室の開催> スポーツセンター教室運営業務委託 平成16年度 新光ビル(株) 52,994,355円（決算額） 平成17年度 (株)東京アスレティッククラブ 59,894,837円（決算額）				

		（単位：千円）						
		17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
予算・決算額等の推移	予算額	59,895	61,209	0	0	0	0	0
	決算額（23年度は見込み）	59,895	61,024	0	0	0	0	0
	人件費等	2,844	1,281	854	847	814	872	
	減価償却費						291	
	【事務分担当】（%）	33	15	10	10	10	10	
	合計（+ +）	62,739	62,305	854	847	814	1,163	0
	国（特定財源）							
	都（特定財源）							
	その他（特定財源）	72,323	72,323					
	一般財源	-9,584	-10,018	854	847	814	1,163	0
実績の推移	事項名	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
	教室受講者数	83,656	83,019	117,227	121,120	119,543	126,626	129,159

事務事業分析シート（平成23年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成21年度（決算）		平成22年度（決算）		平成23年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
			0		0		0

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		20年度	21年度	22年度	23年度	目標値 (25年度)	
標	教室参加者数（人）	121,120	119,543	126,626	129,159	130,451	

（問題点・課題）	<ul style="list-style-type: none"> ・常に利用者のニーズを把握し、年度途中で教室内容の変更や新たな教室の開催など、柔軟な対応が必要である。 ・施設の空いている時間帯を効率的に活用する必要がある。 ・スタジオを活用した教室事業の参加者を拡大するため、積極的に周知する必要がある。
他区の実況	（実施 21 区 未実施 1 区）

問題点・課題の改善策検討	
平成24年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
指定管理者に対し、教室の改善・充実等利用者へのサービス内容をチェックし、周知する。	利用者の拡大が期待できる。
施設の空いている時間帯の利用状況を調査し、空いている時間帯を有効活用する。	空いている時間帯での教室の開催が実施できるようになる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
推進	継続	区民の健康維持・体力増強等のため、各種スポーツや体力アップ等の教室を開催する。

議会議況（要旨）	
----------	--

事務事業分析シート（平成23年度）

No1

事務事業名	校庭開放用夜間照明設備の整備	部課名	教育委員会事務局社会体育課	課長名	泉谷 清文		
		担当者名	和田 光子	内線	3372		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（23年度）	校庭開放用夜間照明設備の整備						
事務事業の種類	新規事業（23年度 22年度）		建設事業		それ以外の継続事業		
開始年度	昭和 平成	元年度	根拠	学校教育法第137条、社会教育法第44条、			
終期設定	有 無	年度	法令等	スポーツ振興法第13条			
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画		
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市[]					
	政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]					
	施策	生涯スポーツの推進[04-14]					
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・区民の健康増進、体力向上を図るため、区立小、中学校の校庭施設を区民が夜間でも利用できるよう整備する。 ・区民に対するスポーツ習慣づくりの場を提供する。 ・スポーツを通じて地域における健全なコミュニティの育成を図る。 						
対象者等	<ul style="list-style-type: none"> ・区内在住・在勤・在学者の社会教育関係登録団体（スポーツ団体）。 ・社会教育関係団体登録数 合計1,089団体（平成22年6月現在） ・PTA、地域町会等 						
内容	1. 「社会教育関係団体（スポーツ団体）」に登録した団体等には、学校設備使用料を免除しスポーツ活動の場を提供し、広く区民の健康増進、体力向上を図る。 2. 使用許可については、当該学校の副校長が行っている。 3. 夜間校庭利用種目は、主にサッカー・テニス・野球3種目で、利用されている。 4. 夜間開放校庭学校別利用種目及び利用件数						
		種目	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
	諏訪台中学校	テニス	978	958	952	782	836
	南千住第二中学校	サッカー	251	280	281	247	257
	第三中学校	野球・サッカー・その他	249	287	288	271	250
	第五中学校	野球・サッカー・テニス	512	434	424	457	400
	第二峡田小学校	野球・サッカー	42	44	49	207	141
	第五峡田小学校	野球・サッカー	154	172	170	154	137
	尾久小学校	野球・サッカー	242	239	237	240	185
	尾久宮前小学校	テニス	175	167	176	157	126
ひぐらし小学校	野球・サッカー・テニス	205	366	388	450	424	
		2,808	2,947	2,965	2,965	2,756	
経過	平成 元年	尾久小学校					
	平成 2年	第五峡田小学校、尾久宮前小学校、第五中学校、南千住第二中学校					
	平成 3年	第二峡田小学校、諏訪台中学校					
	平成14年	第三中学校					
	平成17年	ひぐらし小学校					
必要性	区民から、夜間でも身近な場所でスポーツができる場の提供をしてほしいとの要望が高まっているため。						
実施方法	(1直営) (直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員)						

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
		17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
	予算額	10,450	0	0	0	0	0	0
	決算額（23年度は見込み）	10,450	0	0	0	0	0	0
	人件費等	2,155	427	427	424	407	436	/
	減価償却費	/	/	/	/	/	145	/
	【事務分担量】（%）	25	5	5	5	5	5	/
	合計（+ +）	12,605	427	427	424	407	581	0
	国（特定財源）							
	都（特定財源）							
その他（特定財源）								
一般財源	12,605	427	427	424	407	581	0	
実績の推移	事項名	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
	夜間照明設置校	9	9	9	9	9	9	9

事務事業分析シート（平成23年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成21年度（決算）		平成22年度（決算）		平成23年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	工事請負費	校庭照明設備設置工事	0	0	校庭照明設備設置工事	0	校庭照明設備設置工事

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		20年度	21年度	22年度	23年度	目標値 (25年度)	
標	実施校	9校	9校	9校	9校	9校	
	利用件数	2,965件	2,965件	2,756件	2,800件	2,800件	

（問題点・課題）	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の夜間利用時の自覚（周辺住民への配慮）及び収支の改善（照明料の徴収等）を図る必要がある。 ・周辺住民の理解と協力が必要である。
他区の実況	（実施 22 区 未実施 0 区）

問題点・課題の改善策検討	
平成24年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
区民からの要望が高まっている一方、周辺住民への配慮も重要と考える。学校施設担当者と連絡を密に取り合いながら利用者への利用マナー等の周知をはかる。	利用者のマナーの向上をはかることにより、安全で、円滑な運営ができる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
継続	継続	夜間にサッカーや庭球などの利用について需要があるため維持する。

議会議況（要旨）	
----------	--

事務事業分析シート（平成23年度）

No1

事務事業名	荒川遊園管理運営費（スポーツハウス管理運営費・営繕費）	部課名	教育委員会事務局社会体育課	課長名	泉谷 清文																															
		担当者名	南谷 浩史	内線	3371																															
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（23年度）	スポーツハウス管理運営費(01-03-01)																																			
事務事業の種類	新規事業（23年度 22年度）		建設事業	それ以外の継続事業																																
開始年度	昭和 平成	5年度	根拠	荒川遊園スポーツハウス条例・スポーツ振興法																																
終期設定	有 無	年度	法令等	第3条																																
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画																															
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市[]																																		
	政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]																																		
	施策	生涯スポーツの推進[04-14]																																		
目的	荒川遊園スポーツハウスを広く区民の利用に供し、区民の健康の増進と体力の維持向上を図るとともに、スポーツの振興に寄与する。																																			
対象者等	肥満の防止や健康増進のためにスポーツを取り入れようとする地域住民																																			
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・本事業は、平成12年9月より施設機能をより良好な状態に保持するため、また、スポーツセンターや運動施設との一元的な管理を図るため、同施設に係る全ての管理を土木部より執行委任を受け教育委員会が行い、公園緑地課においては、財産管理等を行っていた。 ・平成23年4月からは、区立荒川遊園の管理運営方法の見直しに伴い、荒川遊園スポーツハウスを、教育委員会が設置管理する公の施設として位置付けた。 																																			
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="2">施設の概要</td> <td colspan="3">地上3階・地下1階の屋内運動施設</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">階数</td> <td colspan="4" style="text-align: center;">施設内容</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3階</td> <td colspan="4">ギャラリー</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2階</td> <td colspan="4">温水プール(25m)・子供用プール・採暖室・ロッカー室・シャワー室</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1階</td> <td colspan="4">総合受付・会議室(2)・ラウンジ・事務室</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">地下1階</td> <td colspan="4">アリーナ(約520㎡)・トレーニングルーム(約250㎡)・ロッカー室</td> </tr> <tr> <td colspan="2">休館日・・・年末年始</td> <td colspan="3">開館時間・・・午前9時～午後9時30分</td> </tr> </table>	施設の概要		地上3階・地下1階の屋内運動施設			階数	施設内容				3階	ギャラリー				2階	温水プール(25m)・子供用プール・採暖室・ロッカー室・シャワー室				1階	総合受付・会議室(2)・ラウンジ・事務室				地下1階	アリーナ(約520㎡)・トレーニングルーム(約250㎡)・ロッカー室				休館日・・・年末年始		開館時間・・・午前9時～午後9時30分		
施設の概要		地上3階・地下1階の屋内運動施設																																		
階数	施設内容																																			
3階	ギャラリー																																			
2階	温水プール(25m)・子供用プール・採暖室・ロッカー室・シャワー室																																			
1階	総合受付・会議室(2)・ラウンジ・事務室																																			
地下1階	アリーナ(約520㎡)・トレーニングルーム(約250㎡)・ロッカー室																																			
休館日・・・年末年始		開館時間・・・午前9時～午後9時30分																																		
経過	<ul style="list-style-type: none"> ・平成5年7月1日 開設、荒川遊園地下駐車場とともに管理運営を財団法人荒川区地域振興公社に委託 ・平成12年4月 スポーツハウスに係る業務を教育委員会に管理委任した。(スポーツ施設の一元的) ・平成23年4月 スポーツハウス管理運営業務の所管を教育委員会に移す。 																																			
必要性	区民生活の向上とスポーツを通じて健康作りやコミュニティ活動の育成が図れる。																																			
実施方法	(3委託) (直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員) 平成23年度より、所管を土木部から教育委員会事務局(社会体育課)に移し、管理運営を実施している。 荒川遊園スポーツハウス管理運営業務等委託 日新製糖(株) 125,34133円 22年度決算額																																			

		(単位：千円)						
予算・決算額等の推移		17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
	予算額	131,425	132,997	160,291	173,643	147,694	133,007	124,148
	決算額(23年度は見込み)	127,557	129,308	154,357	168,534	135,863	125,934	124,148
	人件費等	1,550	1,281	1,708	847	1,629	3,052	
	減価償却費						1,017	
	【事務分担量】(%)	18	15	20	10	20	35	
	合計(+ +)	129,107	130,589	156,065	169,381	137,492	130,003	124,148
	国(特定財源)							
	都(特定財源)							
	その他(特定財源)							
一般財源	129,107	130,589	156,065	169,381	137,492	130,003	124,148	
実績の推移	事項名	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
	利用者数(人) 個人利用	103,587	96,166	89,277	85,137	86,039	85,721	86,578
	固定教室	47,573	47,047	46,071	44,740	48,214	50,954	51,464
	自由教室	6,952	6,500	4,647	5,382	5,198	3,929	3,968
	団体利用	13,732	13,290	15,335	12,925	13,392	15,161	15,313

事務事業分析シート（平成23年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成21年度（決算）		平成22年度（決算）		平成23年度（予算）	
		主な事項		主な事項		主な事項	
		金額（千円）	金額（千円）	金額（千円）	金額（千円）		
	光熱水費	電気・ガス・水道料金	31,953	電気・ガス・水道料金	32,130	電気・ガス・水道料金	33,953
	役員費	電話料・通信運搬費	236	電話料・通信運搬費	224	電話料・通信運搬費	224
	委託料	清掃・管理業務等委託	85,532	清掃・管理業務等委託	86,445	清掃・管理業務等委託	84,400
	使用料及び賃借料	トレーニング機器賃借料	1,812	トレーニング機器賃借料	1,092	トレーニング機器賃借料	732
	工事請負費	工事等	16,086	工事等	6,043	工事等	4,715
	備品購入費	ボールシート	244			ボール・アリーナ用CD施設デッキ	114
	償還金利息及び割引料	過年度還付金	0	過年度還付金	0	過年度還付金	10

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		20年度	21年度	22年度	23年度	目標値 (25年度)	
	一日あたりの利用者数（人）	417.4	430.5	442.5	443.1	452.5	稼働日19年度～21年度 355日 22年度352日
	一人あたりの維持管理コスト（円）	833	784	770	759	669	管理運営費のみを対象

（問題点・課題）	<p>・施設の老朽化が進んでおり、今後大規模修繕を実施する必要がある。</p>
他区の実況	（実施 22 区 未実施 区）

問題点・課題の改善策検討		
	平成24年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
	老朽化による不具合を改善するため、計画的な修繕を実施する。	利用者が安全かつ快適に施設を利用することができる。
	魅力ある施設とするために指定管理者の導入を検討する。	民間事業者の専門的な能力を生かすことにより、利用者の増加が見込める。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
継続	継続	区民の健康維持・体力増強等に活用される屋内スポーツ施設を管理運営する。

議会議況（要旨）	
----------	--

事務事業分析シート（平成23年度）

No1

事務事業名	荒川遊園スポーツハウス教室運営委託費	部課名	教育委員会事務局社会体育課	課長名	泉谷 清文
		担当者名	南谷 浩史	内線	3371
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（23年度）	荒川遊園スポーツハウス教室運営委託費（01-03-03）				
事務事業の種類	新規事業（23年度 22年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和 平成	5年度	根拠	荒川遊園スポーツハウス条例	
終期設定	有 無	年度	法令等		
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市[]			
	政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]			
	施策	生涯スポーツの推進[04-14]			
目的	荒川遊園スポーツハウスの利用促進を図り、利用者のニーズにあった教室を開催し、区民の健康の増進と体力の維持向上を図るとともに、スポーツの振興に寄与する。				
対象者等	区内在住・在勤・在学の方 ただし、定員に満たない場合は区外の方にも対象を拡大				
内容	<p><教室の概要>平成22年度</p> <p>1.温水プールでの固定会員制教室</p> <p>(1)2歳児から中学生を対象の4教室、週23ｺｰｽ(定員965人、受講料月額2,900円・月曜のみ2,600円)</p> <p>(3)中学生以下を除く方(親子を含む)を対象の10教室、週17ｺｰｽ(定員480人及び25組、受講料月額3,500円・月曜のみ3,150円)</p> <p>2.アリーナでの固定会員制教室</p> <p>(1)3歳から中学生を対象の4教室(定員225人、受講料月額2,000円・月曜のみ1,800円)</p> <p>(2)中学生以下を除く方を対象の7教室(定員245人、受講料月額2,600円・火曜のみ2,050円)</p> <p>3.アリーナの自由会員制教室 小学4年生から大人を対象の7教室(定員420人、受講料1回200~700円)</p> <p>4.その他トレーニングルームで、アドバイス、トレーニングメニューを作成する。</p>				
経過	平成7年7月~平成11年3月 荒川地域振興公社の自主事業として実施 平成12年4月~ スポーツ施設の一元化に伴い区の事業として実施(社会体育課に執行委任) 平成23年4月~ スポーツハウスの所管が土木課から教育委員会(社会体育課)になったことに伴い、教室運営も教育委員会事業として実施				
必要性	区民生活の向上とスポーツを通じて健康作りやコミュニティ活動の育成が図れる。				
実施方法	(3委託) (直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員)				
	スポーツハウス教室運営業務委託 日新製糖(株) 39,581,634円 22年度決算額				

		(単位：千円)						
		17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
予算・決算額等の推移	予算額	40,480	40,420	40,059	39,233	39,127	37,160	39,058
	決算額(23年度は見込み)	38,815	38,517	35,870	34,849	37,928	39,582	39,058
	人件費等	1,895	1,281	1,281	847	814	872	
	減価償却費						291	
	【事務分担量】(%)	22	15	15	10	10	10	
	合計(+ +)	40,710	39,798	37,151	35,696	38,742	40,454	39,058
	国(特定財源)							
	都(特定財源)							
	その他(特定財源)							
	一般財源	40,710	39,798	37,151	35,696	38,742	40,454	39,058
実績の推移	事項名	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
	教室受講者数(人)	54,525	53,547	50,718	50,122	53,412	54,883	55,432

事務事業分析シート（平成23年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成21年度（決算）		平成22年度（決算）		平成23年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
		委託料	教室運営委託	37,928	教室運営委託	39,582	教室運営委託

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		20年度	21年度	22年度	23年度	目標値 (25年度)	
	教室受講者数（人）	50,122	53,412	54,883	55,432	56,235	

（問題点・課題）	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の拡大ならびに収支の一層の改善を図る必要がある。 ・常に利用者のニーズを把握し、年度途中に教室内容の変更や新たな教室を開催するなどの柔軟な対応が必要。
他区の実況	（実施 21 区 未実施 1 区）

問題点・課題の改善策検討		
	平成24年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
	積極的に利用者の声を聴くことにより、常に利用者のニーズを把握し、教室運営に反映させる。	利用者の拡大が期待できる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
推進	継続	区民の健康維持・体力増強等のため、各種スポーツや体力アップ等の教室を開催する。

（状況）	
------	--